

アジア経済ビジネス事情

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

受講生と共に、沖縄の視点からアジアに接近する。本講義の前半では、TPPの対応と沖縄ブランド農業への移行、新しい産業構造の出現やITビジネスのあり方について講義する。後半では、県産品のアジアマーケティングや沖縄ブランド・沖縄観光について説明する。なおこの科目は、両学科の共通科目なので、多くの学生が受講しています。写真を多用する自家製プリントを使っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	東アジアの地域統合（東アジア共同体の構築vsTPPの加盟）
2	アジアの経済統合と日本のFTA戦略
3	アジアの産業構造の変化とITクラスターの形成
4	ITビジネス—台湾EMS・アメリカ篇
5	ITビジネス—韓国・中国・日本篇
6	沖縄発IT・流通革命・物産革命
7	沖縄自律型経済の基礎と県のアジア経済戦略
8	沖縄ソフトパワーの具現化と沖縄ブランド
9	国際観光都市那覇の活性化—香港・シンガポールの経験
10	アジアを引きつける新産業(国際物流・環境ビジネス・ホテルビジネス)
11	アジアの航空競争と沖縄の航空・港湾改革
12	沖縄の産業間連携と循環型農業・ブランド農業への移行&食品加工業の強化
13	沖縄 基地維持政治と財政依存経済からの脱却—アジアや世界との直接交流
14	アジアの将来像—開かれアジアと沖縄ブーム
15	レポートの提出と復習
16	テスト

【履修上の注意事項】

1. プリント学習に取り組むことが必要である。
2. 課題の提出を忘れない。

【評価方法】

課題中心に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。適宜、プリント等を配布する。

【参考文献】

- ①関満博(2012)『沖縄地域産業の未来』新評論
- ②富山大学編(2012)『東アジア地域統合の探究』法律文化社

暗号化とセキュリティ

担当教員 又吉 光邦

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

昨今、個人情報や企業の機密情報の流出が、深刻な社会的な懸案事項となってきている。情報漏洩を防ぐ方法、本人確認の手法など暗号の重要性が見直されている。本講義では、暗号の歴史から現在の主な暗号方法までの概要を学ぶことをねらいとしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ギリシア・ローマ時代の暗号
2	古代中国の暗号
3	第二次世界大戦と暗号技術
4	情報化による文明構造の変革（デジタル技術とマルチメディア）
5	情報セキュリティの登場
6	社会基盤としてのポストモダン暗号
7	現代社会と暗号利用
8	インターネット・電子投票・電子キャッシュ
9	共通鍵暗号Ⅰ
10	共通鍵暗号Ⅱ
11	素数の世界
12	公開鍵暗号Ⅰ
13	公開鍵暗号Ⅱ
14	疑似ランダムビット列によるストリームデータの暗号Ⅰ
15	疑似ランダムビット列によるストリームデータの暗号Ⅱ
16	テスト

【履修上の注意事項】

教科書はありません。

プロジェクタを用い、説明します。

必要な資料は、pdf形式で電子掲示板にアップロードしますのでダウンロードして下さい。

【評価方法】

テストと授業態度。

（おしゃべりは、他の学生の迷惑になるだけでなく、講義進行の妨げになります。そのためおしゃべりをした学生の評価は、不可です）

【テキスト】

テキストの指定は、ありません。

必要な資料は、pdf形式かパワーポイント形式で電子掲示板にアップロードしますのでダウンロードして下さい。

【参考文献】

インターネット上の暗号に関するWebページ。

意思決定論

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

意思決定は我々の日常生活から組織体の活動に至るまで欠かすことのできない行為であり、特に企業においては組織の存続に関わることも多く、意思決定を効果的に行うためには情報収集・現状分析・代替行為の決定といった一連の情報処理プロセスを理論的根拠に基づき実践することが必要となる。

本講義では、人間の主観的判断の計測や収集情報の整理、問題構造の分析等を支援する際に有効となる意思決定支援手法やアルゴリズムについて学習する。また、これらの手法の適用事例も適時紹介する。

【授業の展開計画】

本講義では、意思決定を支援する手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	意思決定支援手法の概要
2	意思決定基準 (i)
3	意思決定基準 (ii)
4	意思決定と確率 (i)
5	意思決定と確率 (ii)
6	期待値と期待効用
7	主観確率
8	主観的判断の計測と階層分析法 (i)
9	主観的判断の計測と階層分析法 (ii)
10	階層構造と構造化アルゴリズム (i)
11	階層構造と構造化アルゴリズム (ii)
12	マルコフ連鎖 (i)
13	マルコフ連鎖 (ii)
14	リスクと不確実性 (i)
15	リスクと不確実性 (ii)
16	

【履修上の注意事項】

第1回目の講義に欠席したものは、登録を取り消す場合があるので、必ず出席すること。
また、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とするので注意すること。

【評価方法】

試験結果、レポート、出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第1回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

- (1) 木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」, 近代科学社
- (2) 松原望 著「意思決定の基礎」, 朝倉出版

ウェブデザイン演習

担当教員 安里肇クラス、平良直之クラス (2クラス)

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネット上で情報を発信する場合にはHTMLを用いてウェブサイト構築するのが一般的である。HTMLの特徴として文字情報だけではなく、音声、画像、アニメーション等の視覚的にアプローチできるマルチメディア媒体である。本演習では、Adobe社のPhotoshop, Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、ウェブサイトのデザインを各自に試作してもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス/受講受付
2	Photoshopの基本操作
3	Photoshopのペイントツール
4	Photoshopによる選択ツール
5	Photoshopによる画像補正と色調補正
6	Photoshopによる画像合成とフィルタ
7	Photoshopによるロゴの作成
8	Illustratorの基本操作
9	Illustratorの基本図形の描画とパスの作成
10	Illustratorによるオブジェクトの編集
11	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成
12	Illustratorによるロゴの作成
13	Illustratorによるシンボルマークの作成
14	Illustratorの応用機能とPhotoshopとの連携
15	制作作品プレゼンテーション1
16	制作作品プレゼンテーション2

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す(出席できない場合は事前に連絡すること)。産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する予定である(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

ウェブデザイン演習

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネット上で情報を発信する場合にはHTMLを用いてウェブサイトを構築するのが一般的である。HTMLの特徴として文字情報だけではなく、音声、画像、アニメーション等の視覚的にアプローチできるマルチメディア媒体である。本演習では、Adobe社のPhotoshop, Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、ウェブサイトのデザインを各自に試作してもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス/受講受付
2	Photoshopの基本操作
3	Photoshopのペイントツール
4	Photoshopによる選択ツール
5	Photoshopによる画像補正と色調補正
6	Photoshopによる画像合成とフィルタ
7	Photoshopによるロゴの作成
8	Illustratorの基本操作
9	Illustratorの基本図形の描画とパスの作成
10	Illustratorによるオブジェクトの編集
11	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成
12	Illustratorによるロゴの作成
13	Illustratorによるシンボルマークの作成
14	Illustratorの応用機能とPhotoshopとの連携
15	制作作品プレゼンテーション1
16	制作作品プレゼンテーション2

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

講義時に紹介する。

ウェブプログラミング

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

インターネットの普及にともない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、ブログ、インターネットショッピングといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関連する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	PHPの開発環境
2	PHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）
3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）
4	演習：PHPの基礎
5	PHPの組み込み関数①（文字列・配列の操作）
6	PHPの組み込み関数②（ファイルの操作、メール送信）
7	演習：PHPの組み込み関数
8	WebでのPHP①（テキスト・ボタンの利用）
9	WebでのPHP②（認証、セッション、外部コマンド）
10	演習：WebでのPHP
11	PHPにおけるクラス
12	MySQLによるデータ操作の基本①（データの挿入、検索、更新、削除）
13	MySQLによるデータ操作の基本②（テーブル作成、データ挿入・検索・更新・削除）
14	PHPにおけるデータベース利用①（データベース接続とデータの検索）
15	PHPにおけるデータベース利用②（データの挿入・更新・削除）
16	演習：PHPにおけるデータベース利用

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験・レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

【参考文献】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

ウェブマーケティング

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

インターネットの登場によりこれまでの企業活動は新たな局面を迎え、ウェブテクノロジーによりパラダイムシフトを遂げた。企業の事業内容によって異なるが、一般的にウェブサイトによる広告宣伝活動、電子商取引活動、顧客との双方向通信、また、事業内容に関連する市場調査やマーケティングリサーチにウェブサイトやウェブ技術を応用することなどがウェブマーケティングに含まれる。このようなインターネットの商用利用の歴史、技術的な側面、さらにマーケティングにおける応用などを包括的に取り上げ講義を行っていく。

【授業の展開計画】

インターネットを利用すると消費者への自社ブランドの印象付けや、顧客ロイヤルティの獲得、リピータ確保などに効果が高く、うまく使いこなせば他メディアより低いコストで極めて効果の高いマーケティング効果を得ることができる。しかしながら、効率的に高い効果を得るためには、高度なノウハウが必要とされる。このような技術的な側面も含めて講義を進めていく。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	マーケティングとは
3	インターネット
4	ユビキタスコンピューティング
5	ウェブテクノロジーとビジネス1
6	ウェブテクノロジーとビジネス2
7	前半まとめ及び確認問題
8	データマイニングとデータウェアハウス
9	アクセスログ解析とクラウドコンピューティング1
10	アクセスログ解析とクラウドコンピューティング2
11	ウェブマーケティング1
12	ウェブマーケティング2
13	SNSおよびウェブサイト構築関連技術1
14	SNSおよびウェブサイト構築関連技術2
15	最終試験
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。出席できない場合には必ず事前連絡すること。

【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。4年次以上の受講生は注意すること。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

【参考文献】

講義時に紹介する。

エグゼクティブ・セミナー

担当教員 -上地 哲

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

県内外の産業界で活躍するビジネスマンをゲストに招き、起業、経営、発展、そして人生そのものをテーマに話してもらい、今後の進路、就職、生き方の参考にしてもらいます。

【授業の展開計画】

オリエンテーション

産業社会概論

産業界から企業経営者、ビジネスマン、個人事業者などをゲストとして招きトークを中心に授業を行います。

【履修上の注意事項】

原則として、遅刻、欠席は事前に届け出てください。

授業中の退席、居眠り、私語は禁止。退場してもらいます。

パワーポイントの投影資料は配布しませんので、必要な人はノートをとること。

【評価方法】

出席とレポート提出（毎回）、期末テストで総合評価します。

【テキスト】

テキストはありませんが、毎週日曜日に沖縄タイムス経済面（サンデー経済）に掲載される「よろず支援拠点カルテ@沖縄」を読んで授業に臨んでください。

【参考文献】

随時授業の中で紹介して行きます。

応用マクロ経済学 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

応用マクロ経済学Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

応用ミクロ経済学 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究する。ミクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて究明する。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第一回 家計の経済活動：選好と効用
- 第二回 無差別曲線の性質①
- 第三回 無差別曲線の性質②
- 第四回 予算の制約
- 第五回 需要量の決定①
- 第六回 需要量の決定②
- 第七回 所得変化・価格変化の効果
- 第八回 企業の生産活動、生産関数①
- 第九回 生産関数②
- 第十回 費用曲線①
- 第十一回 費用曲線②
- 第十二回 産出量の決定①
- 第十三回 産出量の決定②
- 第十四回 供給変化の効果
- 第十五回 期末試験

【履修上の注意事項】

第一回目の講義の際に履修上の注意を連絡します。

【評価方法】

出席、レポート提出、期末試験を基に総合的に評価します。

【テキスト】

特に指定しません。

【参考文献】

- ①伊藤元重、『ミクロ経済学』日本評論社
- ②N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2000年

応用ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

応用ミクロ経済学Ⅰで学習した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習を深める。まず、完全競争市場における資源配分の効率性についてふれ、次に独占市場や寡占市場、独善的競争市場について学ぶ。さらに、市場がうまく機能しない市場の失敗について学び、不完全な情報の下では経済行動に問題が生じ、資源配分がうまくいかないことについて学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 応用ミクロ経済学Ⅱ概要説明
- 第2回 完全競争市場と資源配分①
- 第3回 完全競争市場と資源配分②
- 第4回 独占市場について①
- 第5回 独占市場について②
- 第6回 寡占市場について①
- 第7回 寡占市場について②
- 第8回 中間試験
- 第9回 独占的競争市場①
- 第10回 独占的競争市場②
- 第11回 市場の失敗①
- 第12回 市場の失敗②
- 第13回 不完全情報①
- 第14回 不完全情報②
- 第15回 期末試験

【履修上の注意事項】

応用ミクロ経済学Ⅰを履修することが望ましい。第一回の講義に履修上の注意を説明します。

【評価方法】

出席状況、小テスト、課題、中間テスト、期末テストの状況を総合して評価します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。

【参考文献】

- ①『ミクロ経済学』伊藤元重、日本評論社
- ②マンキュー『ミクロ経済学』東洋経済新報社

オペレーションズリサーチ

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

オペレーションズ・リサーチ (OR) とは最適戦略に関連する手法の総称であり、第二次世界大戦中のイギリスで様々な分野の科学者が招集され、軍の配備や防空システムといった軍事目的の研究に着手したことが発端だと言われている。また、複雑化・多様化した現代社会において、最良の方針を模索するための合理的・科学的アプローチは企業や政府、自治体にとって必須となっており、ORの考え方は効果的な情報処理という意味でも重要な位置づけにある。

【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。また、受講生の理解度を深めるため、適宜、PC教室での演習も行う。

週	授 業 の 内 容
1	ORとは
2	線形計画法 (i)
3	線形計画法 (ii)
4	線形計画法 (iii)
5	線形計画法 (iv)
6	日程計画とPERT (i)
7	日程計画とPERT (ii)
8	日程計画とPERT (iii)
9	在庫管理 (i)
10	在庫管理 (ii)
11	在庫管理 (iii)
12	待ち行列理論 (i)
13	待ち行列理論 (ii)
14	待ち行列理論 (iii)
15	待ち行列理論 (iv)
16	

【履修上の注意事項】

- ①本講義は、意思決定論、知的情報処理などに関連する科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、講義を登録させないこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定 (第一回目の講義の際に連絡します。)

【参考文献】

- (1) 福田・児玉・中道 著「OR入門」, 多賀出版
- (2) 大村平 著「ORのはなし」, 日科技連
- (3) 森・松井 著「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店

環境資源経済論 I

担当教員 藤田 陽子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

企業情報論 I

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

企業情報論Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

企業と産業財産権

担当教員 有賀 俊二

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業で知的財産権担当として実践できる実務的な講座

- 1) 知的財産権の魅力
- 2) 商標・特許の調査（特許庁のHPを利用した調査ノウハウ）
- 3) 商標出願の実際（特許庁への出願ノウハウ）
特許庁のホームページを活用した実践的講義とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的財産権制度の全体概要と企業経営における役割
3	企業の知的財産権活用事例研究
4	商標制度の概要と商標権の役割
5	特許制度の概要：特許公報の読み方
6	実用新案制度の概要と特許法と相違
7	意匠制度の概要と意匠権の役割
8	著作権、不正競争防止法と知的財産権
9	商標情報検索実習 1
10	商標情報検分析、調査報告書の作成演習
11	意匠・特許情報検索実習
12	商標出願書類の作成演習 1
13	商標出願書類の作成演習 2
14	意匠出願書類の作成演習
15	簡単な特許出願書類の作成演習
16	知財トラブル事例／出願課題提出

【履修上の注意事項】

講義では、特許庁のホームページを実際に活用しながら進める。

【評価方法】

講義の中で実際に特許庁に出願するレベルの商標登録の書類作成をする。
オリジナルの商標を考え、調査し、書類を作成するところまでは最低ラインとする。
これに課題レポートなどを考慮して評価する。

【テキスト】

特許庁のHPの参照の他、適時、提供する。

【参考文献】

なし

基礎演習 I

担当教員 又吉 光邦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

スクラッチというソフトを用いて、論理的に物事を組み立てる能力を育成する。本演習ではスクラッチによるグラフィカルなユーザーインターフェースを用いてプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。少し具体的に言えば、本講義では、コンピュータの基本的な処理について学び、簡単な計算や反復計算、条件分岐のプログラム作成を通して、プログラミングについて理解を深めてもらうことを目的とする。

【授業の展開計画】

人の行う情報処理は、(1) 順次処理、(2) 反復処理、(3) 分岐処理の3つで構成されている。コンピュータのシステム(プログラム)もこれら3つの処理の組合せで成り立っている。本講義ではこれらについて、スクラッチおよびプログラミング言語Javaを用いて実際に簡単なプログラムの作成で学習する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	スクラッチの基本操作(1) スプライトの動き
3	スクラッチの基本操作(2) 制御命令
4	スクラッチの基本操作(3) サウンド制御
5	スクラッチの基本操作(4) 見た目の制御
6	スクラッチの基本操作(5) 条件分岐
7	シューティングゲームの作成(1)
8	シューティングゲームの作成(2)
9	シューティングゲームの作成(3)
10	Javaでの開発手順
11	画面に文字を表示するプログラムを記述する。
12	プログラムの作成 I (順次処理)
13	プログラムの作成 II (if文:分岐処理)
14	プログラムの作成 III (for文:反復処理)
15	課題。
16	課題提出

【履修上の注意事項】

授業では、講義始まりの30分程度の間座学での説明をします。

【評価方法】

出席：規定通り。

提出物：10回程度の提出物。

授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。

【テキスト】

【参考文献】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム、電子掲示板に掲示するプリント(各自印刷)。
やさしいJava、ソフトバンク、高橋麻奈

基礎演習 I

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案することができる創造力、そしてそれを遂行できる実行力などを含めた総合的な能力（問題解決能力）が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まる。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような条件でどの要素を使うのかなど問題解決の方法自体を記述したものがプログラムとなる。本演習ではプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。

【授業の展開計画】

本演習では、プログラミングを通じた問題解決能力の養成を主眼としていることから、プログラミング環境としてはアイコンベースのビジュアルプログラミング言語である「Scratch（スクラッチ）」を用いる。各課題においては、ワークシート上にてアイデアのラフスケッチを描き、それをPAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）にて図示した後にプログラムを行う手順を取る。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	プログラムとアルゴリズム
3	PAD (Problem Analysis Diagram：問題分析図)
4	スクラッチの基本操作（1）スプライトの動き
5	スクラッチの基本操作（2）制御命令
6	スクラッチの基本操作（3）サウンド制御
7	スクラッチの基本操作（4）見た目の制御
8	スクラッチの基本操作（5）条件分岐
9	シューティングゲームの作成（1）
10	シューティングゲームの作成（2）
11	シューティングゲームの作成（3）
12	個人製作によるゲームの企画・開発（1）
13	個人製作によるゲームの企画・開発（2）
14	最終発表会（1）
15	最終発表会（2）
16	

【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が5回以上であれば不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。理解度確認のためのチェックテストを行う。学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。

【評価方法】

出席状況、受講態度、成果物、チェックテスト等により総合的に判断する。

【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム

【参考文献】

藤吉弘亙 他「実践ロボットプログラミング ―LEGO Mindstorms NXTで目指せロボコン!」近代科学社

基礎演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 曹 真

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案することができる創造力、そしてそれを遂行できる実行力などを含めた総合的な能力（問題解決能力）が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まる。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような条件でどの要素を使うのかなど問題解決の方法自体を記述したものがプログラムとなる。

本演習ではプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	プログラムとアルゴリズム
3	PAD (Problem Analysis Diagram : 問題分析図)
4	スクラッチの基本操作 (1) スプライトの動き
5	スクラッチの基本操作 (2) 制御命令
6	スクラッチの基本操作 (3) サウンド制御
7	スクラッチの基本操作 (4) 見た目の制御
8	スクラッチの基本操作 (5) 条件分岐
9	シューティングゲームの作成 (1)
10	シューティングゲームの作成 (2)
11	シューティングゲームの作成 (3)
12	個人製作によるゲームの企画・開発 (1)
13	個人製作によるゲームの企画・開発 (2)
14	最終発表会 (1)
15	最終発表会 (2)
16	総括

【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。

学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。”

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。評価は受講態度、成果物により総合的におこなう。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

- ・石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム
- ・阿部和広「小学生からはじめるわくわくプログラミング」日経BP社

基礎演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Microsoft Excelを利用して、産業情報学科で必要になる基礎学力を身につけるのが目的である。データと呼ばれる数字の観察の仕方が主な学習内容になる。具体的には、PCやインターネットを使って経済学を学ぼうとすると、どの様になるのかを経験していくことになる。PC操作の経験の程度には個人差があるため、当初は手も足も出ない印象を持つことがあるかもしれない。だが、半年の実習を積み重ねると、当初は全く出来なかったExcel操作が容易になっていくので、不安を持つことなく取り組んでもらいたい。

【授業の展開計画】

1. 沖縄県データと全国データの観察
2. 表計算とグラフ作成の基礎
3. グラフの観察と文章記述
4. GDPを構成するデータの観察
5. 経済成長率と寄与度の学習

【履修上の注意事項】

1つ1つ積み重ねる形で学習内容のファイルを作成し、保存する。そのため、遅刻・欠席が続くと受講が困難になるので注意すること。

【評価方法】

出席、受講状況、提出課題により、総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布する。

【参考文献】

[1]山本柘・竹内明香『入門 計量経済学 — Excelによる実証分析へのガイド』新世社、2013年。

基礎演習Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代社会は、情報技術の進歩や社会の急速な変化により情報が大量に氾濫している高度情報社会と呼ばれている。このような社会で生活するためには、情報やデータを主体的に読み取り取捨選択し正しい判断するリテラシー能力が必要不可欠である。

この講義では情報リテラシーおよび統計データを用いた分析など情報分析に関する基本的な能力を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、情報リテラシーとは
2	データの読み方①
3	データの読み方②
4	経済統計①
5	経済統計②
6	経済統計③
7	情報・文献の収集①
8	情報・文献の収集②
9	メディアリテラシー①
10	メディアリテラシー②
11	情報の加工と整理、分析①
12	情報の加工と整理、分析②
13	情報の加工と整理、分析③
14	レポート・論文の作成①
15	レポート・論文の作成②
16	まとめ

【履修上の注意事項】

おおむね授業前半解説、後半課題の形式とし、成績評価は課題提出に重点をおいている。出席はもちろんのこと、講義を理解して課題に取り組み、提出を怠らないよう注意すること

【評価方法】

受講態度3割、講義内課題7割とする。進捗状況によって比率は前後するため、最終回において詳細を公表する。

【テキスト】

特に使用しない。講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門-研究のための8つの力-』ミネルヴァ書房、2011年
 学習技術研究会『知へのステップ-大学生からのスタディスキルズ-第3版』くろしお出版2011年
 『情報の達人第1巻図書館へ行こう!』紀伊國屋書店 2007年

基礎演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習の目的は、産業情報学科における今後の学習に活かすため情報の収集・分析、レポート・論文作成、プレゼンテーションの基本を身につけることです。この演習では、まず身近な経済統計情報を基に情報の収集、整理、統計データの基本的な分析について学びます。次に報告レポートの作成、プレゼンテーションについて学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	基礎演習Ⅱの基本事項
2	インターネットを通じた情報収集①
3	インターネットを通じた情報収集②
4	統計データの分析①（増加率、構成比）
5	統計データの分析②（増加率、構成比）
6	統計データの分析③（寄与率、寄与度）
7	統計データの分析④（寄与率、寄与度）
8	統計データの分析⑤（変動係数）
9	統計データの分析⑥（記述統計）
10	統計データの分析⑦（記述統計）
11	レポート作成の基本①
12	レポート作成の基本②
13	プレゼンテーションの基本①
14	レポート報告とディスカッション①
15	レポート報告とディスカッション②
16	基礎演習Ⅱの総括

【履修上の注意事項】

第一回の演習の時間に注意事項を説明します。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、レポートの報告をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは特にしていません。演習の際に参考文献などを紹介します。

【参考文献】

- ①『大学生のためのレポート論文術』、小笠原喜康、講談社
- ②『経済論文の作法』、小浜裕久・木村福成、日本評論社

基礎数学

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ（情報）を作り出すことを情報処理という。本講義ではまず高校数学の復習を行い、次に微分積分や確率など、情報処理に必要となる基本的な知識を学ぶ。また、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を行い、練習問題をなるべく多くこなすことで受講生が数学的センスを身につけられるよう配慮する。

【授業の展開計画】

本講義では、以下の授業計画を基に講義を展開し、経済学および情報科学に必要な基礎的な数学知識を学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	式と計算(i)
2	式と計算(ii)
3	関数(i)
4	関数(ii)
5	関数(iii)
6	平面図形と式(i)
7	平面図形と式(ii)
8	方程式と不等式(i)
9	方程式と不等式(ii)
10	方程式と不等式(iii)
11	順列と組合せ(i)
12	順列と組合せ(ii)
13	確率(i)
14	確率(ii)
15	確率(iii)
16	

【履修上の注意事項】

- ①本講義は、情報数学、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果，出席状況，レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

(1) 石村園子 著「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」，共立出版 (2) 情報処理教育研究会 編「情報数学の基礎」，日本理工出版会 (3) 小堆光喜 著「情報処理数学 60DAYS」，実教出版

基礎数学

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

基礎数学の目的は、高校数学 I・Aと産業情報学科で利用する数学への橋渡しである。2年次以降の専門科目を受講するための基礎学力を養成したい。数学が苦手な学生は多いが、まず、数学への取り組み方を見なおすことから始めてもらいたい。解答を待たずに自分で計算する、計算プロセスを丁寧に記述する、復習に利用できるノートを作成する、など、工夫を加えることが成果につながる。また、週1回90分の講義という、高等学校までと進行ペースが違うことに慣れるのも重要である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済情報と数学：イントロダクション
2	式と計算①
3	式と計算②
4	直線と1次関数
5	まとめと問題練習 1
6	2次関数と最大・最小①
7	2次関数と最大・最小②
8	2次関数と最大・最小③
9	2次不等式
10	指数と対数、いろいろな関数
11	まとめと問題練習 2
12	個数の処理と確率①
13	個数の処理と確率②
14	個数の処理と確率③
15	まとめと問題練習 3
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

ワークシート・練習問題のプリントを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

木村哲三・浦田健二『経済学を学ぶための基礎数学 第2版』同文館出版，2010年。

【参考文献】

水野勝之『入門編 テキスト経済数学』中央経済社，2000年。

金融情報論 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融情報論 I では、「金融システム」および「金融の理論的側面」を講義する。講義の目的は、「産業と情報」における「金融」の役割を理解するための、基礎知識を身につけることである。イメージしやすい、身近な金融行動を例にするところから解説をはじめ、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。授業の展開計画にあるように、講義では様々な「金融」の説明が出てくる。受講生には、目の前の「金融」の説明が、「身近なたとえばでは何処のことか」イメージする習慣を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	金融市場の基礎知識①
3	金融市場の基礎知識②
4	金融の理論的側面 1 : 金融市場①
5	金融の理論的側面 1 : 金融市場②
6	家計の金融活動
7	企業の金融活動
8	金融の理論的側面 2 : 企業行動①
9	金融の理論的側面 2 : 企業行動②
10	わが国の銀行
11	わが国の金融サービス業
12	金融の理論的側面 3 : 金融仲介①
13	金融の理論的側面 3 : 金融仲介②
14	銀行規制政策
15	わが国の金融政策
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

[1] 藤原賢哉・家森信善編著『金融論入門』, 2002年。

金融情報論Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融情報論Ⅱでは「資金決済システム」および「電子マネー・電子商取引」を中心に講義する。金融部門は情報化と相互に作用しあって発展してきた産業である。従って、金融論の視点から「産業と情報」について理解することが講義の目的になる。学習内容を身近にイメージする工夫を通じて、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。そのため、授業の展開計画にあるような諸内容と、受講生がイメージする「金融」の距離感を縮めるような解説を、常に心がけたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	資金決済システム①
3	資金決済システム②
4	決済リスク
5	資金決済システムの比較
6	資金決済システムの現在
7	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動①
8	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動②
9	電子マネー・電子商取引①
10	電子マネー・電子商取引②
11	金融の理論的側面2:電子マネー・電子商取引と金融①
12	金融の理論的側面2:電子マネー・電子商取引と金融②
13	金融システムと情報技術革新
14	情報技術革新の進展と金融経済①
15	情報技術革新の進展と金融経済②
16	期末試験

【履修上の注意事項】

金融論の基礎知識を前提に講義を進めるので、金融情報論Ⅰを受講しておくことが望ましい。

【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 館龍一郎監修, 日本銀行金融研究所編『電子マネー・電子商取引と金融政策』東京大学出版会, 2002年。
 [2] 中島真志・宿輪純一『決済システムのすべて(第2版)』東洋経済新報社, 2005年。

経営情報システム論

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムによる効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを解説する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論し、また、意思決定システムやシミュレーション技術、ネットワーク技術、データベース技術などの工学的な要素も取り入れて概観していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンスー情報システムとはー
2	経営情報システム
3	経営戦略と情報システム
4	戦略的情報システム
5	意思決定と情報システム
6	eビジネスモデル
7	前半まとめ及び確認問題
8	意思決定活動と応用ソフトウェア1
9	意思決定活動と応用ソフトウェア2
10	企業事例・ERP
11	コンピュータの歴史とハードウェア1
12	コンピュータの歴史とハードウェア2
13	ソフトウェアとエンドユーザーコンピューティング
14	コンピュータネットワークとグループウェア
15	後半まとめおよび最終試験
16	試験解答および総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。

【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。4年次以上の受講生は注意すること。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

【参考文献】

講義時に紹介する。

経済学概論 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学の基本を身につけることが目的である。学習対象の経済の定義(辞書的な説明)は、生産・分配・支出に関する世の中の仕組みであり、難解きわまりない印象がある。さらに、経済学の理解のために必要な思考のプロセスは、高等学校までに経験した社会分野の学習イメージとは異なるだろう。だが、学習対象を言い換えれば「働く・給料をもらう・買い物をする」という、社会人が日々行っている活動に関する世の中の仕組みをさす。身近な出来事の学習であることを忘れずに取り組み、難解さを減らしてもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学とはどのような学問か：イントロダクション
2	需要と供給①
3	需要と供給②
4	需要曲線と消費者行動①
5	需要曲線と消費者行動②
6	費用の構造と供給行動①
7	費用の構造と供給行動②
8	学習内容の復習1
9	経済をマクロからとらえる①
10	経済をマクロからとらえる②
11	有効需要と乗数メカニズム①
12	有効需要と乗数メカニズム②
13	貨幣の機能①
14	貨幣の機能②
15	学習内容の復習2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

[1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社，2015年。

【参考文献】

[1]安藤至大『ミクロ経済学の第1歩』有斐閣，2013年。
 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第1歩』有斐閣，2013年。

経済学概論 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学は社会の事象・現象を理解するのに、最も役立つ学問の一つである。経済学を身につけると「世の中の流れ」が分かり、激動する社会変化に対応できる能力が身につく。

経済学をわかりやすく、基礎から講義する。パソコンを使い、株価、為替レート、景気、成長率、政府の政策、沖縄の経済等をリアルタイムで紹介し、EXCELを使い計算をしながら、経済現象をわかりやすく解説していきたい。

【授業の展開計画】

1. 経済学とは何か
2. 経済を読み解く基礎知識
3. 市場の機能
4. ストックとフロー
5. 経済の成長・発展
6. お金の働き
7. 信用創造
8. 銀行の役割
9. インフレとデフレ
10. 金融政策
11. 地域の経済
12. マーケット・リサーチ
13. 市町村の経済
14. 地域と人口
15. 環境と地域

【履修上の注意事項】

1から優しく教えますが、積み木のような構造になっているので、途中理由無く休まないこと。

【評価方法】

テストとりポーにより評価します。

【テキスト】

一つのテキストを使うわけではないので適宜紹介します。

【参考文献】

経済学概論Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済の様々な問題について、経済「学」が用意している考え方を学習する。経済学の学習では、グラフの説明が「図」そのものに止まらずに文章記述と結びくという、高等学校までの社会科の学習では経験のない考え方のスタイルを多く見聞きすることになる。真剣に受講していても戸惑うことが多くなるかもしれない。だが、「働く・給料をもらう・買い物をする」という、社会人生活で普段行われていることが学習の対象であるため、これらの何処が学習内容なのかを忘れずに取り組むと、難解さが減っていくものと考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学とはどのような学問か：イントロダクション
2	市場取引と資源配分①
3	市場取引と資源配分②
4	独占と競争の理論①
5	独占と競争の理論②
6	市場の失敗①
7	市場の失敗②
8	学習内容の復習1
9	マクロ経済政策①
10	マクロ経済政策②
11	インフレ・デフレと失業①
12	インフレ・デフレと失業②
13	経済成長と経済発展①
14	経済成長と経済発展②
15	学習内容の復習2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

[1]伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社，2015年。

【参考文献】

[1]安藤至大『ミクロ経済学の第1歩』有斐閣，2013年。
 [2]柴田章久・宇南山卓『マクロ経済学の第1歩』有斐閣，2013年。

経済学概論Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学の基礎知識を基に、地域経済分析のスキルを講義し、アジア経済、日本経済、沖縄経済の概略についてわかりやすく講義する。今、経済のグローバル化が進展し、沖縄の経済といえども、世界の経済の影響を大きく受けている。沖縄経済に視点を置き、激動する社会・経済の変化にどう対応して、発展すべきかについて講義する。

【授業の展開計画】

1. 地域経済分析の基礎
2. アジアの経済 1 中国
3. アジアの経済 2 台湾
4. アジアの経済 3 インド
5. アジアの経済 4 ASEAN
6. アジアの経済 5 ミャンマー
7. 日本の経済 1 歴史
8. 日本の経済 2 高度成長 バブル経済
9. 日本の経済 3 アベノミックス
10. 沖縄の経済 1 歴史と文化
11. 沖縄の経済 2 沖縄振興計画
12. 沖縄の経済 3 沖縄21世紀ビジョン
13. 沖縄の経済 4 これからの沖縄経済
14. 地域とグローバリゼーション
15. アジアの中の沖縄

【履修上の注意事項】

1から優しく教えますが、積み木のような構造になっているので、途中理由無く休まないこと。

【評価方法】

テストとリポートにより評価します。

【テキスト】

一つのテキストを使うわけではないので適宜紹介します。

【参考文献】

経済数学

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済数学の目的は、2年次以降の専門科目で利用する数学の基礎を身につけることである。専門科目で学習する分析ツールを使いこなすには、本講義レベルの数学的理解が要る。そのため、基礎数学に比べて高度な学習内容になる。だが、講義中に自ら計算を試みる態度を持ち続ければ、必ずしも難解にはならない。高度な学習内容は計算全体の一部にすぎず、基本計算の実行が問題解答の大部分なためである。基本計算でミスをしていないことが学習内容を難解にしないコツであることに、早めに気づいてもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済情報と数学：イントロダクション
2	微分の基本計算
3	微分の公式と計算①
4	微分の公式と計算②
5	1変数関数の極大・極小
6	偏微分と全微分①
7	偏微分と全微分②
8	偏微分と全微分③
9	まとめと問題練習 1
10	線形代数の基礎①
11	線形代数の基礎②
12	行列式と固有値①
13	行列式と固有値②
14	行列式と固有値③
15	まとめと問題練習 2
16	期末試験

【履修上の注意事項】

ワークシート・練習問題のプリントを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・山下隆之『はじめよう 経済数学』日本評論社，2003年。
 [2] 三土修平『初歩からの経済数学(第2版)』日本評論社，2001年。

国際経済学

担当教員 仲地 健

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

“世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	国際貿易と日本の経済成長①
3	国際貿易と日本の経済成長②
4	貿易の基礎理論① 貿易の基本的メカニズム
5	貿易の基礎理論② 比較優位と絶対優位・為替レート調整
6	貿易の基礎理論③ ヘクシャー＝オリーンの命題、プロダクト・サイクル理論、雁行形態論
7	貿易政策と経済厚生① 消費者余剰と生産者余剰、輸入関税、輸入割当
8	貿易政策と経済厚生② 輸出自主規制、輸出税、輸出補助金
9	為替レートの決定①
10	為替レートの決定②
11	IS-LM分析① IS曲線とLM曲線
12	IS-LM分析② 固定相場制における財政・金融政策
13	IS-LM分析③ 変動相場制における財政・金融政策
14	ポリシーミックス
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

その都度紹介する。

コンピュータ会計

担当教員 一井口 千秋

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

最適化概論

担当教員 又吉 光邦

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、組合せ最適化問題について、我々の身近なところに現れる具体例を用いて学ぶことをねらいとしている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	組合せ最適化についてのあらし
2	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅰ
3	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅱ
4	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅲ
5	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅳ
6	組合せ最適化問題の例Ⅰ
7	組合せ最適化問題の例Ⅱ
8	巡回セールスマン問題
9	割り当て問題
10	ナップザック問題
11	2次割り当て問題
12	多角形詰め込み問題
13	最適解と局所解、組合せ問題の難しさ（厳密解法と近似解法）
14	進化計算手法による組合せ問題の解法Ⅰ
15	進化計算手法による組合せ問題の解法Ⅱ
16	テスト

【履修上の注意事項】

教科書はありません。

プロジェクタで講義内容を投影して、授業を進めます。

講義内容のファイルは、必要に応じて学内掲示板に掲載します。

【評価方法】

授業態度とテスト

【テキスト】

講義内容を記したパワーポイント形式のファイルをライブキャンパスに配布。

【参考文献】

組合せ最適化問題に関するWeb上の参考資料。

産業情報特別講義 I (経済と情報)

担当教員 未定

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業情報特別講義Ⅲ（eビジネス）

担当教員 オムニバス形式

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業情報分析 I

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネットなどから産業・経済データを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	推移・比較分析
3	順位・比較分析
4	内訳・順位分析
5	関係分析
6	比較・関係分析
7	階層分析
8	集中度・格差分析
9	原因の影響度分析
10	売上傾向分析
11	伸び率分析
12	データの集計分析
13	CS分析
14	データの基本的統計分析（その1）
15	データの基本的統計分析（その2）
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

山崎紅『説得できるデータ図解の鉄則 Excelビジュアル活用編』日経BP社、住中光夫『Excelでマスターするビジネスデータ分析 実践の極意』ASCII、上田太郎『新版Excelでできるデータマイニング入門』同友館、等。

産業情報分析Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からの産業データの収集、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で進める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	産業情報データの特性を分析する（1）
3	産業情報データの特性を分析する（2）
4	産業情報データの特性を分析する（3）
5	ものごとの関係を分析する（1）
6	ものごとの関係を分析する（2）
7	ものごとの関係を分析する（3）
8	単一要因の効果の大きさを評価する
9	複数の要因変数の効果を同時に測る（1）
10	複数の要因変数の効果を同時に測る（2）
11	どちらのグループになるかを判別予測する
12	普及率などを予測する
13	定性的データを数量的に分析する（1）
14	定性的データを数量的に分析する（2）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

渡辺美智子ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 統計データ分析』秀和システム、
 淵上美喜ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 ビジネスデータ分析』秀和システム、
 上田太郎ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 多変量解析』秀和システム、等。

産業情報論

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業創造論

担当教員 城間 勇雄

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では沖縄の産業創造を沖縄のおかれた地理的特性、歴史的な経緯と気候・風土等をふまえて、復帰後の沖縄振興開発計画及び沖縄振興計画、そして新しい振興計画の基礎として策定された21世紀ビジョンを論じる。その上で沖縄経済の成長のエンジンと目されている観光、情報・通信産業、成長著しい国際物流に進む。また従来の製造業の外、医療・バイオ・健康関連産業にも触れ、道州制等の制度やイノベーションについても言及する。特に専門性の高い分野では外部から現職の担当者に講義をサポートしてもらい具体的な講義内容にする。さらに途中3回の振り返り・学生同士の討論を挟み、全体として「考える」ことを重視した講義内容にする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の目的 全体計画 講義概要 -沖縄についてどれだけ知っているか-
2	歴史の視点から見る沖縄の産業と沖縄に賦存する資源
3	沖縄振興開発計画(第1次~第3次)と沖縄振興計画
4	21世紀ビジョンと新振興計画 -21世紀に展開する沖縄の振興計画-
5	振り返り討論Ⅰ ◎第1回課題提示
6	沖縄の基幹産業① -観光を切り口とした産業の創造-
7	沖縄の基幹産業② -情報産業の現状と未来展望-
8	沖縄のものづくり産業 -新しい切り口の製造業、健康・バイオ関連産業-
9	振り返り討論Ⅱ ◎第2回課題提示
10	道州制と沖縄経済
11	産学官共同研究事業と沖縄TLO
12	沖縄における国際航空物流 -アジアのハブ空港をめざして-
13	振り返り討論Ⅲ ◎最終総括課題提示
14	産業創造論まとめ Ⅰ
15	産業創造論まとめ Ⅱ
16	(講義の進み具合によってカリキュラムを一部変更する場合があります)

【履修上の注意事項】

初回の講義で最終総括日に提出する総括レポートの課題を提示する。第2週目以降途中で3回の振り返り討論を挟み、この間に講義した内容について学生同士で議論し総括する。その際これまでに終えた講義に関するレポートの課題を提示する。それを翌週の講義開始前に提出のこと。その際、レポートと一緒にこれまでに終えた講義に対する感想、意見、要望を合わせて提出すること。

【評価方法】

試験は行わない。

- ・受講態度 5割(講義出席 6割未満は不可)
- ・途中2回の提示レポートの成績 2割
- ・最終総括レポートの成績 3割
- ・その他途中で提示する設問に対する意見・感想文も加味する。

【テキスト】

【参考文献】

産業ネットワーク論

担当教員 當銘 栄一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

産業連関論

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場する言葉であるが、これらの計算には産業連関表を用いられている。産業連関表を用いた分析である産業連関分析は、経済波及効果に限らずさまざまな分析に用いられる有用な手法である。

この講義では、産業連関表や産業連関分析の一部について解説し、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、実際統計データを用いて応用、分析を行えることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	産業連関分析の基本①：産業連関表について、基本取引表
3	産業連関分析の基本②：投入係数表、自給率など
4	行列①：行列、逆行列の概念
5	行列②：表計算ソフトによる計算
6	産業連関分析の基本③：逆行列係数表
7	産業連関分析の基本④：付帯表
8	産業連関分析の応用①：経済波及効果
9	直接効果の計算①：具体事例
10	直接効果の計算②：社会調査、アンケート調査など
11	産業連関分析の応用②：表計算ソフトによる計算
12	産業連関分析の応用③：経済波及効果の計算
13	産業連関分析の応用④：価格波及分析
14	演習①：経済波及効果
15	演習②：価格波及分析
16	総括

【履修上の注意事項】

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。

経済学、数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義であり、経済学概論Ⅰ・Ⅱや経済数学の知識、受講を前提としている。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

授業態度3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。

ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。

授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。

【テキスト】

安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年

【参考文献】

藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらくIO入門』日本評論社2005年

土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年

情報化と法

担当教員 有賀 俊二

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

インターネットに代表されるコンピュータ・ネットワークの急激な発達に伴い、経済社会の変化に対して法的な対応の問題やモラルの問題、及びこれらの問題への基本的な理解と対応力を磨く。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	情報化と法との関わり
3	情報化と知的財産権（1）
4	情報化と知的財産権（2）
5	コンピュータ・プログラムの法的保護
6	表示の法的保護
7	営業秘密の法的保護
8	企業情報開示の問題
9	情報公開制度
10	個人情報保護
11	電子商取引に関する問題
12	製造物責任と情報提供
13	情報モラルとサイバー犯罪
14	情報化と法的問題の事例 1
15	情報化と法的問題の事例 2
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義は、インターネットで実際に関連HPを参照しながら進めるので、コンピュータ教室を使用する。講義開始前にパソコンを立ち上げていること。

講義資料は、M o o d l eで提供する。課題提出もM o o d l eで行う。

【評価方法】

課題（6回程度）、出欠、期末試験の3つで総合評価をする。

課題：60%

出席：10%（但し、8回以上欠席の場合には単位は与えない（不可）。）

期末試験：30%

上記の割合は目安であり、あくまで総合評価を行う。

【テキスト】

毎回、講義開始前にM o o d l eで提供する。

【参考文献】

なし

情報処理概論

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報処理システム演習

担当教員 又吉 光邦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報処理システム論

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

開発の現場で必須となりつつあるUMLとJavaを用いた開発を通して実際の開発過程を理解することを目指す。UMLの基本と各UML図の概要と描き方を解説し、また、現場で行われているシステム開発の例をもとにUMLの実際の活用方法について解説する。さらに、UMLの学習だけでなくオブジェクト指向の考え方や各種開発プロセスについても解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション, UMLとは何か?
2	オブジェクト指向とUML
3	開発プロセス
4	ユースケース図
5	オブジェクト図
6	クラス図
7	シーケンス図
8	シーケンス図
9	総合問題
10	コミュニケーション図
11	状態マシン図
12	アクティビティ図
13	パッケージ図, サブの図
14	実践例 (組み込みシステム)
15	実践例 (組み込みシステム)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

プログラミング理論、プログラミング I・II を履修済みであることが望ましい

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

【テキスト】

竹政昭利 他「かんたんUML入門」技術評論社 (2013)

【参考文献】

河合 昭男「ゼロからわかる UML超入門」技術評論社 (2010)
 オージス総研「その場でつかえるしっかり学べるUML2.0」秀和システム (2006)
 桐越 信一「UMLモデリング教科書 UMLモデリングL2 第2版」翔泳社 (2008)

情報数学

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、情報数学 I に引き続き情報処理に必要な基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、 n 進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。なお、講義の方針は、情報数学 I と同様に、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を主に行い、練習問題をなるべく多くこなすことで数学的センスが身に付けられるよう配慮する。

【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	集合と論理 (i)
2	集合と論理 (ii)
3	集合と論理 (iii)
4	n 進数 (i)
5	n 進数 (ii)
6	n 進数 (iii)
7	n 進数 (iv)
8	ベクトル (i)
9	ベクトル (ii)
10	ベクトル (iii)
11	行列 (i)
12	行列 (ii)
13	行列の応用 (i)
14	行列の応用 (ii)
15	行列の応用 (iii)
16	

【履修上の注意事項】

①本講義は、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科

目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。

②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

情報通信ネットワーク論

担当教員 曹 真

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・情報ネットワークの歴史
2	情報ネットワークのプロトコル
3	データリンク層プロトコル
4	ネットワーク層プロトコル
5	トランスポート層プロトコル
6	アプリケーション層プロトコル
7	トラヒック理論の基礎
8	ネットワーク層プロトコルの実際
9	コンテンツ配信
10	アクセス系ネットワーク
11	IP電話
12	セキュリティ
13	エンタープライズネットワーク
14	NGN (次世代ネットワーク)
15	総まとめ
16	総合演習・期末試験

【履修上の注意事項】

- ・第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・1/3以上の欠席者は、学期末試験の受験資格を与えない
- ・30分以上遅刻した場合は、入室禁止とする
- ・私語による周囲への迷惑をかけた場合は、退席を命ずる

【評価方法】

学期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

【テキスト】

池田博昌, 山本幹「情報ネットワーク工学」オーム社 (2008)

【参考文献】

- ・アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社 (2009)
- ・アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社 (2003)
- ・山内雪路「よくわかる情報通信ネットワーク」東京電機大学出版局 (2010)

情報と職業

担当教員 岡田 良

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報マネジメント演習

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報マネジメント論

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報リテラシー演習

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築（HTML・CSS）およびフラッシュを用いたアニメーション技術を学ぶ。まず最初にテキストエディタで、HTMLのタグを入力して基本的なウェブサイトの作成を行う。さらにスタイルシートを利用したデザイン手法、画像や音声など各種フォーマットの特性を学び、最後にアニメーション作成ソフトウェア（Flash）を用いて簡単なアニメーションの制作を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・登録調整
2	HTMLの基本・テキストエディタの使用法
3	文字のデザイン・カラーコード
4	リンク
5	背景と罫線
6	画像レイアウト・グラフィックソフトの使用法
7	横幅と配置のアレンジ
8	テーブル
9	フォーム
10	HTMLのまとめ確認問題
11	Flashの基本およびサンプル例
12	FlashによるデザインFlashを用いたオープニングアニメーション
13	応用例と上級テクニック
14	課題レポートプレゼン1
15	課題レポートプレゼン2
16	総括

【履修上の注意事項】

共通科目の情報処理基礎を受講済みの学生もしくはそれと同等の技術（ワープロ・表計算ソフトの基礎知識）がある者のみを登録する。これらの技術がない場合には情報処理基礎を履修してから受講すること。内容については毎回の講義の積み重ねになるため、遅刻・欠席は認めない。初回の講義に欠席する者は登録を取り消す（欠席する場合には事前に連絡するように）。教室収容定員の関係上、産業情報学科1年次のみ登録を受け付け、2年次以上の受講希望者は第1回目の講義時に登録する。

【評価方法】

評価は出席状況（50点）と2回の課題レポートもしくは試験（150点）の合計点数より決定する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

講義時に紹介する。

情報リテラシー演習

担当教員 曹 真

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Webサイトを構築する基礎的な技術について、実際にプログラミングを行いながら習得する。前半はWebサイトの文書構造を定義するHTMLと、デザインを構成するためのCSSについて学ぶ。後半は現在のWebサイトにおける技術動向を踏まえ、各々が独自のWebサイトを作成する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスおよび下準備
2	基本的なページの作成
3	レイアウトとデザイン
4	画像の表示
5	リンクとナビゲーション
6	インデックスページの作成
7	テーブルとフォーム
8	仕上げとアレンジ
9	フォーム
10	応用技術 (1)
11	応用技術 (2)
12	応用技術 (3)
13	Webサイトの作成 (1)
14	Webサイトの作成 (2)
15	Webサイトの作成 (3)
16	総括

【履修上の注意事項】

- ・ 共通科目の「情報処理基礎」の単位取得者、または同等の知識・技術を持つ者のみ登録を許可する
- ・ 第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・ 遅刻・欠席は厳禁

【評価方法】

課題の合計100点満点において80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で判定する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

講義時に指定する。

専門演習基礎

担当教員 又吉 光邦

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、卒業論文演習への前段階の取り組みを行う。
具体的には、下記のようなになる。

- (1) テーマ絞り込みのための調査研究
- (2) テーマに沿った研究

【授業の展開計画】

9月～11月：テーマに沿った調査研究を行い、2～3度、プレゼンテーションをしてもらう。
12月～2月：テーマに沿った研究成果の報告書を提出する。

【履修上の注意事項】

- (1) 授業への出席は、必須。
- (2) 授業態度は、評価に大きく影響を与える。
- (3) プレゼンテーション、並びに提出物は必須。

【評価方法】

授業態度 50%。提出物 25%。プレゼンテーション 25%。

【テキスト】

【参考文献】

各自のテーマに沿った、資料など。

専門演習基礎

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。

【授業の展開計画】

専門演習基礎では、システム設計、プログラミング、情報処理に関する基本的なスキルの習得を目指す。そのため、テキストの解説だけでなく受講者に多くの演習課題を課す。また、課題成果の報告（設計内容、コーディング内容）を義務づけ、資料作成・説明力といったプレゼンテーションに必要な技術も学ぶ。

【履修上の注意事項】

- ①プログラミングⅡ、ウェブプログラミングおよびオペレーションズ・リサーチは本演習の関連講義であるため、これらの科目の単位を取得した学生を優先する。
- ②本演習では、受講生に大して事前に課題を与え、その報告をふまえた上で講義をすすめていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、その事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

出席状況 4割、課題提出 3割、成果報告 3割とする。但し、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とする。

【テキスト】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

【参考文献】

(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク (2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ

専門演習基礎

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

大学における講義はレポート・論文の作成やプレゼンテーション（発表）など自分の意見や主張を述べ、文章に表すなど高校までの授業や勉強方法とは異なる方法で課題や試験を回答・提出しなければならない。そこでこの講義では、問題解決能力、情報の収集、レポートの作成方法や発表についての技術・方法について紹介し、実際に練習・演習を行う。

卒業論文作成や就職活動、実社会で活躍できるような問題解決能力と情報分析能力を身に着けることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	演習案内、注意点
2	表現方法①
3	表現方法②
4	制約条件、時間管理①
5	制約条件、時間管理②
6	問題の設定①定義
7	問題の設定②応用（就職活動を事例に）
8	レポート・論文の作成①定義・手順
9	レポート・論文の作成②書き方
10	レポート・論文の作成③構成
11	論理的思考能力①
12	論理的思考能力②
13	グループディスカッション①議論の手法
14	グループディスカッション②演習
15	グループディスカッション③発表
16	

【履修上の注意事項】

発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

演習形式であるため、無断欠席や怠慢は厳しく対処する。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

専門演習基礎

担当教員 曹 真

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、卒業研究に要する技能の基礎部分を学ぶ。レポート・論文の基本構成から、論旨を分かりやすく正確に表現するための文書の記述方法、コンピュータープログラムの実装方法、研究計画の立案方法、主旨を論理的に伝える方法について演習を通じて学び、今後の卒業研究に備える。併せて、情報処理技術の知識と技能を身に付けることを念頭に、情報処理関連資格の学習を支援する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	情報処理関連資格の手引き
3	レポート・論文の書き方（1）
4	レポート・論文の書き方（2）
5	レポート・論文の書き方（3）
6	文章の書き方（1）
7	文章の書き方（2）
8	プログラミング（1）
9	プログラミング（2）
10	プログラミング（3）
11	研究計画書の作成（1）
12	研究計画書の作成（2）
13	プレゼンテーション（1）
14	プレゼンテーション（2）
15	発表会
16	発表会

【履修上の注意事項】

- ・原則として皆出席・無遅刻であること
- ・自身の研究テーマの設定を見据え、授業時間外で、先行研究論文等を積極的に調査すること
- ・情報処理関連資格の取得に積極的に取り組むこと
- ・授業の進捗により、内容を変更する場合がある

【評価方法】

出席状況、課題の提出、プレゼンテーション等により総合的に評価する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

講義時に指定する。

専門演習基礎

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、金融経済論の学習および研究を行う。専門演習基礎では、計量経済分析・経済理論モデルといった、金融経済論の研究に必要な分析方法の学習をはじめ。具体的にはMicrosoft Excelを利用した経済分析の学習をさせている。ゼミ生には、Excelの使いやすさに早めに気づき、分析方法の理解や計算結果の解釈に努めてもらいたい。そのために、教材実習に止まらず、様々なデータを利用した応用学習も行う。なお、金融情報論 I・IIを必ず受講し、金融経済論の基礎知識を身につけておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) 計量経済分析の基礎
- (2) Excelを利用した経済理論の学習
- (3) 分析のためのデータ収集
- (4) 計量経済分析と出力結果の解釈
- (5) 金融経済の基礎知識と計量経済分析

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものよりも、計算結果を理解するための学習が多い。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して開設する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [3] 伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス(新版)』有斐閣、2006年。

専門演習基礎

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今日、ITの発展に伴い、いわゆる「情報の産業化」が進み、新たなビジネスや産業が創出されている。同時に既存産業におけるITの活用により、いわゆる「産業の情報化」が進み、既存産業の効率化や発展が図られている。本演習では、インターネットや表計算ソフトなどを活用しながら、経済・産業に関するデータや情報の収集方法および分析方法を学習し、情報の収集力、問題の発見力・分析力を高めることを目標とする。

【授業の展開計画】

インターネットを活用した産業・経済データや情報の収集方法を学習しながら、Excelなどの統計ソフトを用いて産業・経済データや情報のビジュアル的分析手法および基礎的統計分析手法を学習する。また、後半には3年次の専門演習Ⅰに向けて、個別研究分野を設定するための文献調査・学習も併せて行う。

なお、詳細なスケジュールについては初回演習時に決める。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

初回講義時に紹介する。また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習基礎

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

プログラミングを通して問題解決能力の養成、基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。
また、プログラミングのみならずフィジカルコンピューティング（マウスやディスプレイ、キーボードなどの既存のコンピュータの入出力だけではなく、センサ・アクチュエータなどを使ってコンピュータと人間とのコミュニケーションを実現するという考え方）についても検討を行っていく。

【授業の展開計画】

毎回、30秒プレゼンテーションを実施する。
基本的かつ汎用性の高い画像処理アルゴリズムについて学ぶ。実際に各種プログラミング言語（擬似言語、C言語）での実装、OpenCVの関数を用いたプログラミング（Python, C++言語）実装を行う。
最後には各自で課題作成に取り組み、ゼミ内で発表会を行う。

【履修上の注意事項】

原則として皆出席・無遅刻であること
演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること
情報処理関連試験の取得に積極的に取り組むこと

【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

【テキスト】

小枝 正直 他「OpenCVによる画像処理入門」講談社（2014）

【参考文献】

CG-ARTS協会「ビジュアル情報処理」CG-ARTS協会（2006）
藤本 雄一郎 他「OpenCV 3 プログラミングブック」マイナビ（2015）
小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

専門演習基礎

担当教員 安里 肇

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、4年次の卒業論文制作に向けての第1段階となる。まず、情報技術全般に関する基本的な知識を学び、資格取得に向けた対策を行う。目標とする資格としては、「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」を設定する。この試験と連動した形で進め、基本的な情報技術を身につける。講義後半では、3年次の専門演習に向けた個別テーマを決定するのでそれまでに基礎知識を身につけて興味のある個別テーマを自ら探すようにして努力して欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ITパスポート試験対策 1
3	ITパスポート試験対策 2
4	ITパスポート試験対策 3
5	システム設計とは？
6	プログラミングの課題 1
7	プログラミングの課題 2
8	プログラミングの課題 3
9	データベース設計 1
10	データベース設計 2
11	ネットワーク関連技術 1
12	ネットワーク関連技術 2
13	基本情報技術者試験対策 1
14	基本情報技術者試験対策 2
15	基本情報技術者試験対策 3
16	個別テーマ提案プレゼン

【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、情報処理関連試験の受験を義務づける。また、演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報関連企業の現場訪問、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。授業の展開計画については、年度により内容が変わる場合がある。基本的に受講生からの要望に沿って技術系の内容を取り入れる。

【評価方法】

評価は出席状況や課題レポート・プレゼンにより総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

専門演習基礎

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割をはたしたほうが望ましいのかを研究することである。沖縄県は、地域経済と自治体の財政の関係が深い。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習する。次に、沖縄の振興と財政の役割について検討していく。

【授業の展開計画】

- 第1回 専門演習基礎のオリエンテーション
- 第2回 日本経済の概要①
- 第3回 日本経済の概要②
- 第4回 日本経済の概要③
- 第5回 沖縄県経済の概要①
- 第6回 沖縄県経済の概要②
- 第7回 沖縄県経済の概要③
- 第8回 地域振興と財政①
- 第9回 地域振興と財政②
- 第10回 地域振興と財政③
- 第11回 沖縄振興計画①
- 第12回 沖縄振興計画②
- 第13回 沖縄振興計画③
- 第14回 専門演習基礎の総括①
- 第15回 専門演習基礎の総括②

【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項をお知らせします。

【評価方法】

演習への出席状況、課題の提出状況、演習における取組み、ディスカッションにおける参加の姿勢等、総合的に評価します。

【テキスト】

特に指定しません。

【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

専門演習基礎

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 曹 真

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。

【授業の展開計画】

卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。

【履修上の注意事項】

- ・皆出席・無遅刻であることを義務づける。
- ・演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム、情報系ゼミの卒論発表会）に参加すること。
- ・情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

【参考文献】

適宜指定する。

専門演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習基礎で身につけたプログラミング技能を基に、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。

【授業の展開計画】

本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。第1回目の講義で受講者の担当スケジュールを決め、スケジュールに沿って取り組み状況の進捗を報告を報告してもらう。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

【参考文献】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

専門演習 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的・地域発展を図るための諸方策を探究する。

【授業の展開計画】

二年次の専門演習基礎の学習成果を踏まえ、個別に設定した研究分野に関連した文献レビュー、およびデータや情報を収集し、多変量解析など統計的分析手法を学習しながら、分析結果の取り纏めやプレゼンテーションを行う。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習 I では、沖縄県の経済、振興について基本的な知識を学び、レポートをまとめ報告することを学習しました。演習 II では、各自でテーマをしぼり、情報収集・整理・分析、論文作成、報告、質疑の能力をよりいっそう高めていきます。これは卒業論文演習で卒業論文をまとめる際の基本的な能力を身につけることとなります。

【授業の展開計画】

- (1) 沖縄県の経済①
- (2) 沖縄県の経済②
- (3) 沖縄振興計画① (21世紀プラン)
- (4) 沖縄振興計画② (21世紀プラン)
- (5) 沖縄振興計画③ (21世紀プラン)
- (6) レポート・論文計画の作成①
- (7) レポート・論文計画の作成②
- (8) レポート・論文計画の作成③
- (9) 情報収集と整理・分析①
- (10) 情報収集と整理・分析②
- (11) 論文計画のプレゼンテーション①
- (12) 論文計画のプレゼンテーション②
- (13) 論文計画のプレゼンテーション③
- (14) 論文計画のプレゼンテーション④
- (15) 論文計画のプレゼンテーション⑤
- (16) 演習 II の総括

【履修上の注意事項】

演習の時間に説明します。

【評価方法】

演習への出席状況、レポートの作成、報告を基に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習の時間に説明します。

専門演習 I

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成に向けて、プレゼンテーション、テーマ設定、統計分析の手法などの準備を行う。
卒業論文の作成方法を身に付け、自身の卒業論文作成に適用できることを目的とする。

【授業の展開計画】

1～5回プレゼンテーションの方法と各自発表

6～10テーマ設定方法と各自発表

11～15統計分析・手法の紹介

【履修上の注意事項】

発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

演習形式であるため、無断欠席や怠慢は厳しく対処する。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

授業態度3割・授業内課題4割・最終課題3割を原則とする。

ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。

日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。

【テキスト】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

専門演習 I

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習 I は、卒業研究に必要な計量経済分析の手法に習熟することが目的である。そのためには、教材の内容通りの学習に止まらず、様々なデータを利用して繰り返し実習した経験が必要になる。ゼミ生は、Excelファイルで記録される実習内容と、Wordで記録される分析手法の意味を繰り返し対応させる作業を行う。同時に、Microsoft Excelを利用した分析手法の何処が金融経済の検証に適しているのか考える。なお、ファイナンシャルエコノミクス I を必ず受講し、金融経済に関するExcel計算の手法を数多く身につけておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) 分析ツールの学習：教材と異なったデータを使い、自分で実習する。
- (2) 分析ツールの習得：出力結果を理解する方法を学ぶ。
- (3) 分析ツールの選択：Excelを利用した経済分析の何が適しているのか考える。

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものではなく、計算結果の理解が要求される。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

【評価方法】

分析手法の習熟度と出席状況により評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川栄次・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。

専門演習 I

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習では、専門演習基礎で学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら解説していく。夏期休業中に実施される企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどの取り扱いについても説明する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	システム設計系卒論の説明
3	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明
4	卒業論文と就職希望業種との連携
5	eラーニングコンテンツの説明
6	過去の卒論内容紹介 1
7	過去の卒論内容紹介 2
8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について
9	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？
10	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)
11	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)
12	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 1
13	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 2
14	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 3
15	卒業論文中間発表 1
16	卒業論文中間発表 2 および総括

【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、企業インターンシップへの参加を義務づける。授業の展開計画はあくまでも予定であるので、内容が変わることがある。学外講師を招聘し、講話いただく予定があるため、その場合には土曜日に時間帯を変更する場合もある。

【評価方法】

評価は出席状況やプレゼンテーションにより総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

専門演習Ⅱ

担当教員 曹 真

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅰに引き続き、卒業研究を見据え、社会動向・情報処理技術および研究テーマに関する調査結果をもとに授業を展開する。
具体的な授業内容は受講者が設定し学習を進める。また並列して卒業研究の進捗状況を報告する。

【履修上の注意事項】

- ・皆出席・無遅刻であることを義務づける。
- ・演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム、情報系ゼミの卒論発表会）に参加すること。
- ・情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

【参考文献】

適宜指定する。

専門演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習基礎で学習した沖縄県の経済、地域振興についてさらに掘り下げて学習していく。沖縄県の経済、地域振興についてテーマを絞り、情報収集、整理、分析について学ぶ。これによってレポートや論文としてまとめる基本的な能力を身につけていく。さらに、報告や質疑を通じてディスカッションの能力を高めていく。

【授業の展開計画】

- (1) 沖縄県の経済①
- (2) 沖縄県の経済②
- (3) 沖縄振興計画① (21世紀プラン)
- (4) 沖縄振興計画② (21世紀プラン)
- (5) 沖縄振興計画③ (21世紀プラン)
- (6) レポート、論文の作成について①
- (7) レポート、論文の作成について②
- (8) テーマ設定と情報収集・分析①
- (9) テーマ設定と情報収集・分析②
- (10) レポート作成とプレゼンテーション①
- (11) レポート作成とプレゼンテーション②
- (12) レポート作成とプレゼンテーション③
- (13) レポート作成とプレゼンテーション④
- (14) レポート作成とプレゼンテーション⑤
- (15) 演習Ⅰの総括

【履修上の注意事項】

演習Ⅰのはじめの時間に説明します。専門演習基礎を受講していることを前提とします。

【評価方法】

演習への出席状況、レポートの作成、報告を基本に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習の時間に説明します。

専門演習Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅰに引き続き、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。

【授業の展開計画】

本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。第1回目の講義で受講者の担当スケジュールを決め、スケジュールに沿って取り組み状況の進捗を報告を報告してもらう。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

【参考文献】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

専門演習Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。
まずは前期で選んだテーマ設定をもとに必要な文献・資料を入手し、先行研究を整理、解説しテーマの研究手法や問題点を文章にまとめることである。
これらの作業は卒業論文における文章の書き方やテーマの基本的な知識を身に着けることを目的としている。

【授業の展開計画】

各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。
発表者は事前に資料を準備して、当日のプレゼンに臨み、参加者は資料と発表をもとに意見交換を行うものとする。

【履修上の注意事項】

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。
発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

専門演習Ⅱ

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅱでは、金融経済を対象にした卒業研究のためのケーススタディを行う。卒業研究では、データを収集して基本的な図表を作成した後、Microsoft Excelを利用した計算結果の解釈を繰り返すことになる。ゼミ生には、効率的に研究作業をするめるために、分析作業と並行した参考文献の熟読を薦める。4年次の1月末に卒業研究の報告会を行うため、受講生には金融経済論の理解と研究準備を要求する。なお、ファイナンシャルエコノミクスⅡを受講し、金融経済を対象にしたExcel計算に習熟しておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) 問題意識と仮説の対応を学ぶ。
- (2) 研究領域・データに対応した理論が何か調べ、理解する。
- (3) 出力結果と理論を対応させ、分析結果を解釈する。

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものではなく、計算結果の理解が要求される。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

【評価方法】

分析手法の習熟度と出席状況により評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川栄次・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。

専門演習Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的・地域発展を図るための諸方策を探究する。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅰの学習成果を踏まえ、個別に設定した卒業論文の研究テーマに関連した文献レビュー、データや情報を収集・分析するとともに、研究成果の取り纏めおよびプレゼンテーションを行う。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題の提出、卒業論文プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は専門演習基礎、専門演習Ⅰおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。12月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。

【授業の展開計画】

12月末のプレゼンテーションに向けて、中間発表やグループディスカッションにより、個別テーマの考察を行う。基本的にシステム設計系の内容はウェブアプリケーションの制作とスマートフォンアプリの制作で、コンテンツ制作系はeラーニングコンテンツおよびウェブサイト構築・管理およびウェブマーケティングの内容となる。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	過去の卒業論文の紹介
3	システム設計系卒論の目標設定
4	コンテンツ制作系卒論の目標設定
5	個別報告(プレゼン) 1
6	個別報告(プレゼン) 2
7	個別報告(プレゼン) 3
8	個別報告(プレゼン) 4
9	個別報告(プレゼン) 5
10	個別報告(プレゼン) 6
11	個別報告(プレゼン) 7
12	個別報告(プレゼン) 8
13	個別報告(プレゼン) 9
14	卒業論文発表会 1
15	卒業論文発表会 2
16	総括

【履修上の注意事項】

4年次配当科目の「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」と密接にリンクしているため、卒業論文作成を念頭に置いたテーマ設定、プレゼンテーションが望まれる。

【評価方法】

評価はプレゼンテーションの内容により判断する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

開講時に個別テーマ毎に指定する。

卒業論文演習 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 安里 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習基礎、専門演習 I・II および企業インターンシップで学んだ基本的小よび実践的情報技術の中で、個別テーマを選定し研究成果をプレゼンテーションにより公開したが、本演習では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対しての意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- スマートフォンアプリの構築
- HTML 5・JavaScriptやFlash等を用いたeラーニングシステムの構築
- 電子商取引およびウェブマーケティングに関する考察
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- PHPを用いたウェブアプリケーションの構築

【履修上の注意事項】

基本的に専門演習基礎、専門演習 I、II からの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、専門演習 I との同時受講は認める。

【評価方法】

制作した卒業論文を評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義時に個別に指定する。

卒業論文演習 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報の収集力、問題の発見力と分析力を高めるとともに卒業論文を取り纏める。

【授業の展開計画】

演習Ⅲ・Ⅳの学習成果を踏まえ、個別に設定した卒業論文の枠組みに沿って、情報やデータの収集・調査・分析を行うと同時に研究発表を重ね、卒業論文の論点的確性、内容や表現の明確性、方法の妥当性を高める。

【履修上の注意事項】

第一回の演習時に説明する。

【評価方法】

出席や研究発表の状況などに基づき総合的に評価する。

【テキスト】

各自の研究テーマに即した資料を配布し、図書を紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習 I

担当教員 田口 順等

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅱに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。

卒業論文の作成は情報処理、分析能力を高め、テーマにについての問題点を発見・整理し、解決策や提言を文章にまとめること目標とする。

卒業論文の作成で客観的な視点から、自らの主張を展開し聞き手に理解を深められるような能力を養うことができる。

【授業の展開計画】

各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。

また出席者は発表者の内容を聞き意見や議論に参加しなければならない。

【履修上の注意事項】

卒論作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要であるため、講義時間外でも適宜指導・添削・助言のための時間と機会を設置する。

資料収集や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

発表日に無断で欠席した場合や提出期限を守らない場合は単位を認めない。

【評価方法】

発表者への意見質問などの受講態度、発表状況、卒業論文など総合的に評価する。

【テキスト】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

卒業論文演習 I

担当教員 小渡 悟

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】

本講義では、専門演習 I～IVで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

卒業論文の内容および出席状況により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

卒業論文演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

専門演習 I・II で身に付けた分析手法を利用し、卒業論文の執筆開始をスムーズにすることが目的である。執筆作業は、学習した分析手法の習熟と研究の問題意識の確立を手始めとする。具体的には、一度は理解したものの記憶があいまいな事項、論点の整理が不十分な研究対象、不足している金融経済論の基礎知識、の再確認になる。これらの作業を通じ、研究内容の充実を図ってもらいたい。なお、就職活動や公務員・教員試験の時期と重なるため、受講生の諸状況に合わせ、指導する。

【授業の展開計画】

- (1) 問題意識および仮説の確立
- (2) 参考資料のまとめ
- (3) 分析手法の再確認、計算結果の解釈

【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文としてまとめ上げるには、講義時間外の作業を要する。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

【評価方法】

論文執筆の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。

卒業論文演習 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでの演習で論文のテーマ設定と展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきた。これらの基本的な知識を基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していく。卒業論文演習 I では、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、概要報告およびディスカッションを通じて論文を完成させていく。

【授業の展開計画】

- 第 1 回 卒業論文のテーマと展開①
- 第 2 回 卒業論文のテーマと展開②
- 第 3 回 卒業論文のテーマと展開③
- 第 4 回 情報収集と分析①
- 第 5 回 情報収集と分析②
- 第 5 回 情報収集と分析③
- 第 6 回 情報収集と分析④
- 第 7 回 卒業論文概要報告①
- 第 8 回 卒業論文概要報告②
- 第 9 回 卒業論文概要報告③
- 第 10 回 卒業論文概要報告④
- 第 11 回 卒業論文概要報告⑤
- 第 12 回 情報収集・分析と論文作成①
- 第 13 回 情報収集・分析と論文作成②
- 第 14 回 情報収集・分析と論文作成③
- 第 15 回 情報収集・分析と論文作成④

【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項を説明します。

【評価方法】

演習への出席状況、論文作成の取り組み、論文の概要報告、ディスカッション等により総合的に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。
卒業論文の作成は情報処理、分析能力を高め、テーマにについての問題点を発見・整理し、解決策や提言を文章にまとめること目標とする。卒業論文の作成で客観的な視点から、自らの主張を展開し聞き手に理解を深められるような能力を養うことができる。
さらに最終的には卒業論文を完成し、発表会で発表を行う。参加者の意見や批判に応えることで、実社会における意見のやり取りに耐えうる対応能力を身に着けることができる。

【授業の展開計画】

各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。
卒論作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要であるため、講義時間外でも適宜指導・添削・助言のための時間と機会を設置する。

【履修上の注意事項】

資料収集や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

【評価方法】

受講態度、発表、卒業論文の内容など総合的に評価する。

【テキスト】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

【参考文献】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 小渡 悟

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰで開始した原稿の加筆・修正をもとに、卒業論文を完成させる。報告レジュメを論文として完成させるには、参考文献・資料やExcel分析の追加が不可欠である。専門演習Ⅰ以後、1年以上にわたって金融経済の考察を続けてきたため、ゼミ生には、卒論執筆のための自主性・工夫を求めたい。1月の卒論報告会と2月の卒論提出が控えるため、研究の進行に計画と修正も必要になる。半年の限られた時間の中での執筆になるが、適切な問題意識と仮説から、明確な結論を導く卒業論文を目指してもらいたい。

【授業の展開計画】

- (1) 論文構成の工夫，タイトルの決定
- (2) 参考文献・資料の解釈と記述
- (3) Excel分析の追加と解釈，文章化

【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文としてまとめ上げるには、講義時間外の作業を要する。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

【評価方法】

卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社，2008年。
- [2] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣，2007年。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 平良 直之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】

本講義では、専門演習Ⅰ～Ⅳで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。卒業論文演習Ⅰと同様に、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

出席状況および卒業論文、成果発表により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰで論文のテーマ・展開について確定し、情報収集、分析、概要報告を通じて論文作成に取りかかっている。卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、分析をより進め、論文の作成を進めていく。中間報告で論文の全体的な進み具合を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいく。最終報告で研究した知見を報告し、質疑を通じて知見を深める。

【授業の展開計画】

- 第1回 情報収集・分析と論文作成①
- 第2回 情報収集・分析と論文作成②
- 第3回 情報収集・分析と論文作成③
- 第4回 情報収集・分析と論文作成④
- 第5回 情報収集・分析と論文作成⑤
- 第6回 卒業論文中間報告①
- 第7回 卒業論文中間報告②
- 第8回 卒業論文中間報告③
- 第9回 卒業論文中間報告④
- 第10回 卒業論文の修正①
- 第11回 卒業論文の修正②
- 第12回 卒業論文の修正③
- 第13回 卒業論文最終報告①
- 第14回 卒業論文最終報告②
- 第15回 卒業論文最終報告③
- 第16回 卒業論文の総括

【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項をお知らせします。

【評価方法】

卒業論文演習Ⅱへの出席状況、論文の取り組み、中間報告、最終報告の状況を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 安里 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文Ⅰに引き続き、卒業論文Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、最終的な卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対しての意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- スマートフォンアプリの構築
- HTML5・JavaScriptやFlash等を用いたeラーニングシステムの構築
- 電子商取引およびウェブマーケティングに関する考察
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- PHPを用いたウェブアプリケーションの構築

【履修上の注意事項】

基本的に専門演習基礎、専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業論文演習Ⅰからの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、演習Ⅳとの同時受講は認める。

【評価方法】

提出された卒業論文を評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義時に個別に指定する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報の収集力、問題の発見力と分析力を高めるとともに卒業論文を取り纏める。

【授業の展開計画】

卒業論文演習Ⅰの学習成果を踏まえ、情報やデータの収集・調査・分析を行うと同時に研究発表を重ね、卒業論文の論点の的確性、内容や表現の明確性、方法の妥当性を高め、卒業論文を取り纏める。

【履修上の注意事項】

第一回の演習時に説明する。

【評価方法】

出席状況や研究発表の状況を踏まえて総合的に評価する。

【テキスト】

研究内容に沿って適宜参考資料を配付し図書を紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

卒業論文演習Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域産業概論

担当教員 金城 盛彦

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、産業一般（来年度からは兪先生のご担当に戻ると思います。いわゆる産業一般について学びたい場合は来年度以降受講を）というよりは、そのひとつであり、沖縄県の基幹産業でもある「ツーリズム」を軸に、「3K経済（公共事業、観光、基地）」について考えてみたい。

【授業の展開計画】

1. イントロダクション
2. マクロ経済学の視点から地域をみる方法
3. 域際収支バランスにみる沖縄経済①
4. 域際収支バランスにみる沖縄経済②
5. ツーリズムが沖縄の基幹産業と言える理由①
6. ツーリズムが沖縄の基幹産業と言える理由②
7. ツーリズムが基幹産業と言えない理由①
8. ツーリズムが基幹産業と言えない理由②
9. 中間まとめ
10. 公共事業が基幹産業と言える理由
11. 公共事業が基幹産業と言えない理由
12. 基地が基幹産業と言える理由
13. 基地が基幹産業と言えない理由
14. まとめ①
15. まとめ②
16. 定期試験

【履修上の注意事項】

必要情報を事前に公開し、出来るだけ「予習→講義（復習）」の形態の講義を実施したいと思います。よって、講義では、少なくとも前半は、その予習内容を踏まえた質疑応答を行う予定です。

【評価方法】

出席状況、履修態度および試験の結果に基づき評価を行います。

【テキスト】

講義資料は以下のURLのサイトで入手できます。事前に印刷（1枚に4シートで両面印刷を心掛けないと資料は膨大な量になります）の上、授業に参加して下さい。

<https://onedrive.live.com/?id=7B08A0CA4BA34097%2112366&cid=7B08A0CA4BA34097&group=0>

【参考文献】

授業内容、進度に合わせて適宜紹介します。

地域産業政策論

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域財政論 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地方公共団体はこれまで国の財政と連携して、地域公共財の供給をはじめとした役割を果たしてきました。今日、地方分権の推進により、国と地方の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっており、また、地方公共団体の地域公共財の供給、地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方分権の流れや、全国の中でも財政依存の高い沖縄県の財政についても見ていきます。

【授業の展開計画】

- (1) 地域と財政①
- (2) 地域と財政②
- (3) 地方分権と国，地方の役割①
- (4) 地方分権と国，地方の役割②
- (5) 地域公共財①
- (6) 地域公共財②
- (7) 地方歳入について
- (8) 地方歳出について
- (9) 一般財源補填による財源調整①
- (10) 一般財源補填による財源調整②
- (11) 特定補助金のしくみと課題①
- (12) 特定補助金のしくみと課題②
- (13) 沖縄県の財政と課題①
- (14) 沖縄県の財政と課題②
- (15) 期末試験

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は、必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

特に指定しません

【参考文献】

- ①『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス
- ②『地方財政白書』、総務省

地域財政論Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

まず、地方分権と税財源の拡充，地方債，地方公営企業，第三セクター，都市の財政問題について理解を深めます。次に地方公共団体の地域振興における役割と産業振興における政策展開について取り上げます。今日，地域間の競争が高まる中で，地方公共団体の地域振興における役割が益々高まってきており，とくに産業振興について検討することが重要になってきています。

【授業の展開計画】

- (1) 地方分権と税財源の拡充①
- (2) 地方分権と税財源の拡充②
- (3) 地方債と財源調達弾力化
- (4) 地方公営企業と第三セクターの課題①
- (5) 地方公営企業と第三セクターの課題②
- (6) 都市財政①
- (7) 都市財政②
- (8) 高齢社会と地方財政①
- (9) 高齢社会と地方財政②
- (10) 財政分析①
- (11) 財政分析②
- (12) 沖縄県の財政①
- (13) 沖縄県の財政②
- (14) 情報化と地方公共団体の対応
- (15) 期末試験

【履修上の注意事項】

地域財政論Ⅰを履修していることが望ましい。第一回目の講義の時間に留意事項を連絡します。

【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

特に指定しません

【参考文献】

- ①『地方財政』林宜嗣、有斐閣ブックス

地域発展論

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

知的情報処理

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

今日の企業においては、変動の激しい市場や社会からの多様な要求に対して迅速かつ柔軟に 대응していくことが必要である。このことを実現するためには、経験や勘に頼るだけでなく、得られた情報を柔軟に捉え知的に処理するための理論的枠組みが重要となる。本講義では、人間の嗜好や予測を定量的に扱う概念として知られるファジィ理論を中心に、知的情報処理について学習する。

【授業の展開計画】

本講義では、不確定情報や主観的判断の計測、知的尺度、推論などの概念とこれらを扱う手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的情報処理の概要
3	情報と曖昧さ(1)
4	情報と曖昧さ(2)
5	不確定情報の処理(1)
6	不確定情報の処理(2)
7	知的尺度の処理(1)
8	知的尺度の処理(2)
9	知的尺度の処理(3)
10	システム制御とファジィ関係(1)
11	システム制御とファジィ関係(2)
12	システム制御とファジィ関係(3)
13	知的情報処理と推論アルゴリズム(1)
14	知的情報処理と推論アルゴリズム(2)
15	知的情報処理と推論アルゴリズム(3)
16	

【履修上の注意事項】

第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

- ・中島信之：『ファジィ数学のおはなし』倍風館(1997)
- ・井上洋、天笠美知夫：『ファジィ理論の基礎』朝倉書店(1997)

データ解析論 I

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、統計・統計学についての基本的な概念について解説し、具体的かつ身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの実用的な演習などを行う。

講義の目的は統計学的な知識を身に着け、客観的な根拠に基づく判断を養うことである。

また後期科目データ解析論Ⅱにおける卒業論文作成に必要な統計分析能力を身に着けるための準備段階としての位置づけである。

【授業の展開計画】

講義の進捗状況・受講者によっては内容が一部変更される場合がある。

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	データの種類①データの性質
3	データの種類②度数分布表
4	記述統計学①平均
5	記述統計学②分散、標準偏差
6	記述統計学③基準値と偏差値
7	記述統計学④正規分布、確率密度関数
8	記述統計学⑤演習、計算問題
9	推測統計学①母集団と標本
10	推測統計学②大数の法則、中心基本定理
11	推測統計学③母平均の推定
12	推測統計学④母比率の推定
13	推測統計学⑤統計的仮説検定
14	推測統計学⑤演習、計算問題
15	総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

希望者が多数である場合、受講者を制限する場合がある。

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

本講義の知識をもとに後期科目データ解析論Ⅱの解説に入るため、統計学における基礎的な知識を中心に解説を行う。そのため、初期は簡単、平易と感じて油断や慢心を抱かずに講義に対処すること。

【評価方法】

授業態度3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。

ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。

授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。

【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年

【参考文献】

菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年

今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年

熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

データ解析論Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、データ解析論Ⅰに引き続き、統計学的手法による経済・経営の計量分析における基本的な分析手法について解説を行う。

とくに2変数の関係の分析手法についての分析手法を身に着けることで、卒業論文作成における客観的な相関・因果関係を説明、結論付けられることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要、前期講義の復習
2	二変数の関係①クロス集計表
3	二変数の関係②相関関係
4	二変数の関係③散布図・相関係数
5	二変数の関係④順位相関
6	二変数の関係⑤相関比
7	二変数の関係⑥クラメールの連関係数
8	統計的仮説検定①独立性の検定、カイ二乗分布、検定の概念
9	統計的仮説検定②独立性の検定、カイ二乗検定
10	統計的仮説検定③無相関の検定
11	統計的仮説検定④母平均の t 検定、t 分布、データの種類
12	統計的仮説検定⑤母平均の t 検定、演習
13	統計的仮説検定⑥母比率の z 検定、正規分布
14	統計的仮説検定⑥母比率の z 検定、演習
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

データ解析論Ⅰの履修が望ましい。

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

【評価方法】

授業態度3割・課題3割・期末試験4割を原則とする。

ただし授業の進捗状況によってこの比率は若干変化するため評価の変更や詳細については講義最終回で再公表する。

授業態度と課題を踏まえた期末試験を出題するため、日々の受講態度が単位の取得に大きな影響を与える。

【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年

【参考文献】

菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年

今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年

熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

データベース

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

データベース

担当教員 曹 真

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・データベースとは
2	リレーショナルデータベースの基本 (1)
3	リレーショナルデータベースの基本 (2)
4	SQL (1)
5	SQL (2)
6	SQL (3)
7	SQL (4)
8	トランザクションとロック
9	インデックス - データベースの性能向上
10	ビュー - 仮想表による定義
11	ストアドプロシージャ - データベースアクセスの手続き化
12	ストアドファンクションとトリガー
13	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (1)
14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (2)
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成 (3)
16	総まとめ・学期末試験

【履修上の注意事項】

Webアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。

ウェブプログラミングを履修済みであることが望ましい

(データベースとしてMySQLを使用します)。

プログラミング I・II (プログラミング演習) を履修済みであることが望ましい

(Javaによるアプリケーションの作成があります。Javaに関するある程度の知識が必要です)。

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。出席状況、授業への取り組み、課題、試験等により総合的に判断を行う。

【テキスト】

山田祥寛「MySQLで学ぶデータベース超入門」翔泳社 (2009)

【参考文献】

アंक「SQLの絵本」翔泳社 (2004)

谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社 (2009)

柴田 望洋「明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)

パブリックファイナンス

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

公共部門（中央政府，地方公共団体）の役割は，市場を通じては供給不可能か困難である公共財を供給すること及び民間部門（家計，企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにある．講義では国の財政についてとりあげる．はじめに財政の役割，しくみを学習し，所得税，消費税，法人税について学ぶ．次に，公共事業，社会保障といった支出についてふれる．とくに日本の財政赤字の問題と財政の持続可能性についてとりあげる．

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市場と公共部門の役割①
2	市場と公共部門の役割②
3	財政のしくみ①
4	財政のしくみ②
5	租税について①（所得税）
6	租税について②（消費税、法人税）
7	公債について
8	公共支出について①（公共事業）
9	公共支出について②（社会保障）
10	財政赤字と財政の持続可能性①
11	財政赤字と財政の持続可能性②
12	社会保障と財政①（年金）
13	社会保障と財政②（医療）
14	情報化と公共部門の役割①
15	情報化と公共部門の役割②
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は，必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

特に指定しません。

【参考文献】

①「財政学」林宜嗣，新世社、②「日本の財政改革」青木昌彦・鶴光太郎編著，東洋経済

ビジネス英語

担当教員 上原 千登勢

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネスシーンに登場する様々なトピックを通して英語の4つのスキル(Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習します。国際的なシーンや海外で仕事をすることを想定したアクティビティやロールプレイを取り入れ、実践的な授業を行います。またビジネスマナー、外国人対応、異文化等についても知識と理解を深めることを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	Unit 1: Checking in
3	Unit 2: At the trade fair
4	Unit 3: Schedules
5	Unit 4: Companies
6	Unit 5: Meeting People
7	Unit 6: In the Office
8	Unit 1-6 Can-do check
9	Unit 7: Work
10	Unit 8: Appointments
11	Unit 9: Directions and shopping
12	Unit 10: Reservations
13	Unit 11: Requests and offers
14	Unit 12: Socializing
15	Units 7-12 Can-do check
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

(1) 期末テストの他に、2回のCan-do checkを行います。(2) 遅刻・早退は2回につき1回の欠席とみなします。30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。また、総授業時数の3分の1以上を欠席すると成績評価が「不可」となります。(3) 毎週課題や宿題が出ますので、週に最低でも2-3時間の学習時間を確保してください。

【評価方法】

①出席状況や授業態度、②Can-do check、③課題や宿題、④期末テストを総合的に判断して評価します。

【テキスト】

1. Beginner Business Venture (Student Book), Oxford University Press

【参考文献】

必要に応じて随時授業で紹介します。

ファイナンシャルエコノミクスⅠ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で利用される基本計算を理解することが目的である。学習の対象は家計(個人)と企業の金融行動である。授業の展開計画にみられるように、講義では様々な計算方法を実習する。実習内容が多いと、受講生は、目の前のExcel画面だけに注意が行きがちである。だが、Excel計算が目新しくても、考察対象は実生活(特に卒業後の)と関わりがあることを常に意識して欲しい。これがファイナンス計算を理解するコツだと考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済活動とファイナンス：イントロダクション
2	現在価値と将来価値①
3	現在価値と将来価値②
4	NPV法とIRR①
5	NPV法とIRR②
6	投資収益率①
7	投資収益率②
8	学習内容の復習1
9	期待収益率・分散・標準偏差①
10	期待収益率・分散・標準偏差②
11	共分散・相関係数①
12	共分散・相関係数②
13	分散効果①
14	分散効果②
15	学習内容の復習2
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作そのものより、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展し、ファイルを作成していくため、遅刻や欠席が続くと受講が困難になる。

【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』有斐閣、2013年。

ファイナンシャルエコノミクスⅡ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で多用される具体的な分析方法を理解することが目的である。実習するのは、主として株式を利用した貯蓄に関する分析方法である。受講生の多くは、貯蓄を目的にしながら損失が発生する状況があることを、本講義を通じて初めて知るかもしれない。なぜ「貯蓄するのに損失が発生するのか」という問題意識を持つことで、ファイナンス分野で数学が多く利用される理由に納得し、実生活で役立ちそうな興味が湧くと考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済活動とファイナンス：イントロダクション
2	期待収益率・標準偏差(分散)・相関係数①
3	期待収益率・標準偏差(分散)・相関係数②
4	分散効果①
5	分散効果②
6	学習内容の復習1
7	投資比率とポートフォリオの標準偏差
8	投資比率とポートフォリオの標準偏差
9	学習内容の復習2
10	機会曲線①
11	機会曲線②
12	学習内容の復習2
13	資本市場線と分離定理①
14	資本市場線と分離定理②
15	学習内容の復習3
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作そのものより、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展し、ファイルを作成していくため、遅刻や欠席が続くと受講が困難になる。

【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 大野早苗・小川英治・地主敏樹他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』有斐閣、2013年。

プログラミング理論

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

コンピュータ・ソフトウェアを中心とした情報処理の基本的な問題を扱う。具体的には、プログラミング言語の種類、流れ図の基本、基本アルゴリズムの理解、プログラミング言語Javaのコーディングの参考例などを取り上げて講義を進めていく。本講義では、基本的な論理構成手法（基本アルゴリズム）を覚えること（英語の基本文法を覚えるようなもの）を基本に、例題を基本アルゴリズムの組み合わせで構成し（簡単な英作文を練習するようなもの）、フローチャート（流れ図）の作成等を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス 「プログラミングとは？」
2	アルゴリズム・フローチャート・構造化プログラミング
3	プログラミング言語の種類と分類
4	データ累計とカウンタ
5	java言語によるプログラム例
6	基本データ構造 1次元配列
7	基本データ構造 2次元配列
8	前半まとめおよび確認問題
9	システムエンジニアの仕事とは？
10	スタック・キュー・リスト
11	サーチ（検索）アルゴリズム
12	ソート（並べ替え）アルゴリズム 1
13	ソート（並べ替え）アルゴリズム 2
14	その他の応用アルゴリズム
15	後半まとめおよび最終試験
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。2年次以上の受講生は注意すること。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

【参考文献】

プログラミング I

担当教員 曹 真

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基本的なプログラミング技術習得の習得を目指す。
Java言語をベースとして、手続き型プログラミングの基礎的な理解を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・Javaをはじめよう
2	プログラムの書き方 (1)
3	プログラムの書き方 (2)
4	式と演算子 (1)
5	式と演算子 (2)
6	条件分岐と繰り返し (1)
7	条件分岐と繰り返し (2)
8	配列 (1)
9	配列 (2)
10	メソッド (1)
11	メソッド (2)
12	メソッド (3)
13	複数クラスを用いた開発 (1)
14	複数クラスを用いた開発 (2)
15	複数クラスを用いた開発 (3)
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回講義に出席しない者は登録を認めない
- ・産業情報学科の学生以外は登録できない

【評価方法】

- ・出席回数が3分の2未満は不可とする
- ・課題および学期末試験の結果より評価する

【テキスト】

中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8)

【参考文献】

アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005)
柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)
柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)

プログラミング I

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、基本的なプログラミング技術の習得を目指すものである。プログラミング言語としてJavaを採用しているが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮している。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プログラミング言語とJava
2	変数における識別子と型
3	変数における宣言と利用
4	式と演算子
5	演算子の優先順位と型変換
6	関係演算子とif文
7	if-else文とswitch文
8	for文とwhile文
9	do-while文
10	配列
11	多次元配列
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解
13	フィールドとメソッド
14	オブジェクトの作成
15	オブジェクトの利用
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

プログラミング I

担当教員 小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

実際のソフトウェア開発スキルの修得を目指す。

プログラミング言語にはJavaを用いる。

Java の文法をきちんと理解した上で、基本的なプログラムを読み書きできるようになることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション, 画面に文字を表示しよう
2	変数を使おう (1)
3	変数を使おう (2)
4	プログラムの流れの分岐 (1)
5	プログラムの流れの分岐 (2)
6	プログラムの流れの分岐 (3)
7	プログラムの流れの繰り返し (1)
8	プログラムの流れの繰り返し (2)
9	総合問題
10	基本形と演算
11	配列
12	メソッド (1)
13	メソッド (2)
14	クラスの基本 (1)
15	クラスの基本 (2)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

【テキスト】

柴田 望洋「明解Java入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)

【参考文献】

柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)

プログラミング I

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

プログラミングⅡ

担当教員 曹 真

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

プログラミングⅠで基本的なプログラミング技術を習得した者に対し、さらなる技術習得を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・プログラミングⅠの復習
2	オブジェクト指向をはじめよう (1)
3	オブジェクト指向をはじめよう (2)
4	インスタンスとクラス (1)
5	インスタンスとクラス (2)
6	さまざまなクラス機構 (1)
7	さまざまなクラス機構 (2)
8	カプセル化 (1)
9	カプセル化 (2)
10	継承 (1)
11	継承 (2)
12	高度な継承 (1)
13	高度な継承 (2)
14	多様性 (1)
15	多様性 (2)
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回講義に出席しない者は登録を認めない
- ・産業情報学科の学生以外は登録できない
- ・プログラミングⅠを取得済みの者、もしくは同等の知識を有する者のみ登録することができる

【評価方法】

- ・出席回数が3分の2未満は不可とする
- ・課題および学期末試験の結果より評価する

【テキスト】

中山清喬「スッキリわかるJava入門 第2版」インプレス (2014/8)

【参考文献】

- ・アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005)
- ・柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)
- ・柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)

プログラミングⅡ

担当教員 安里 肇

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	構造化プログラミングの復習 1
3	構造化プログラミングの復習 2
4	構造化プログラミングの復習 3
5	構造化プログラミングのまとめおよび試験
6	クラスの基本 1
7	クラスの基本 2
8	単純なクラスの作成 1
9	単純なクラスの作成 2
10	クラス変数とクラスメソッド 1
11	クラス変数とクラスメソッド 2
12	パッケージ
13	クラスの派生と多相性
14	抽象クラス
15	オブジェクト指向のまとめおよび試験
16	総括

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。プログラミングⅠを取得済みの者のみ登録する。

【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

【参考文献】

開講時に指定する。

プログラミングⅡ

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

プログラミングⅡ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

プログラミングⅡ

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ベンチャー起業論

担当教員 大嶺 聡

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ベンチャー企業の成功事例を通して、起業家の成功のポイントを学ぶ。また、ビジネスアイデアの立案とビジネスプランの作成を体験し、起業におけるビジネスアイデアの重要性とビジネスプランの必要性を理解する。

また、ベンチャー起業家から起業動機や体験談、そこで培った知識やノウハウ等を聴講し、ベンチャーマインドや成功のポイントを学ぶ。

【授業の展開計画】

ベンチャー企業の定義や成功事例などを講義やビデオ観賞をとおして学ぶ。ビジネスアイデア発想を学習し、受講者全員がそれぞれのビジネスアイデアを考える。また、5～6名のグループを編成し、グループ全員でビジネスプランを作成し、ビジネスプランコンテストで最終発表する。

また、グループ演習の前に、起業家より起業の動機や体験談などを講話してもらい、起業時の想いや苦労話、具体的な成功ポイントなどを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	概要説明（講義内容の説明とベンチャー起業家事例①）
2	講義1（ベンチャー企業とは、ベンチャー起業家事例②）
3	講義2（ビジネスアイデア発想法、成功する経営戦略①）
4	講義3（成功する経営戦略②、ビジネスアイデアの発想事例）
5	講演1（ベンチャー企業経営者による講演）
6	講義4（ビジネスプランの作り方①）
7	講義5（ビジネスプランの作り方②、グループ演習の進め方の説明）
8	講演2（ベンチャー企業経営者による講演）
9	演習1（ビジネスアイデアの提出・発表、リーダー選出）
10	演習2（ビジネスプランの作成：グループ演習）
11	演習3（ビジネスプランの作成：グループ演習）
12	演習4（ビジネスプランの中間発表）
13	演習5（ビジネスプランの作成：グループ演習）
14	演習6（ビジネスプランの最終発表のまとめ：グループ演習）
15	演習7（ビジネスプランコンテスト〔最終発表と講評〕、講義まとめ）
16	（予備日）

【履修上の注意事項】

- ・講義の進み具合や特別講師の都合により、カリキュラムを一部変更する場合があります。
- ・本講義中における私語、携帯電話やメールなど、他の受講生に迷惑をかける行為は禁止します。
- ・グループ演習の運営・進行方法等については、グループの自主性に任せますが、他グループやグループ内メンバーに不快を与えるような行為等は厳禁です。

【評価方法】

- ・筆記試験は行いません。
- ・起業家を招いた特別講演後には、レポートを提出していただきます。
- ・ビジネスプランコンテストの成績、グループ演習での取り組み姿勢、提出物、受講態度、出席状況等を考慮し、総合評価いたします。
- ・講義を4回以上欠席した場合は、無条件で不可となります。

【テキスト】

- ・テキストは講義の際に配布いたします。

【参考文献】

- ・講義の際に適宜紹介します。

簿記原理 I

担当教員 多賀 寿史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

企業は一年間の経済・経営活動を各種帳簿に記録・集計し財務諸表（成績表）を作成します。財務諸表の作成の目的は、起用の財産管理、企業利益の算定、そして各種利害関係者への公開です。企業は、数年間の財務諸表を分析して経営改善に役立て各種戦略を立てると同時に、企業の利害関係者に財務諸表を公開し、自らの会社の状態を報告します。本講義では、「経済活動を記録、整理、集計するプロセス」である複式簿記の基本的な仕組みを学びます。本講義の最終目標は、複式簿記のシステムを理解し、基本財務諸表を作成できるようになることです。練習問題を解きながら理解を深めてもらいます。わかりやすい講義を心がける予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・簿記の基礎	17	第11章「手形取引」(1)
2	第2章「資産・負債・純資産・貸借対照表」	18	第11章「手形取引」(2)
3	第3章「収益・費用・損益計算書」	19	第12章「その他債権債務」(1)
4	第4章「簿記の記入法則」	20	第12章「その他債権債務」(2)
5	第5章「仕訳帳と元帳への記入」	21	第13章「有価証券の売買」(1)
6	第6章「試算表と精算表、簿記の構造」(1)	22	第13章「有価証券の売買」(2)
7	第6章「試算表と精算表、簿記の構造」(2)	23	第14章「固定資産取引」(1)
8	第7章「決算手続(その1)」(1)	24	第14章「固定資産取引」(2)
9	第7章「決算手続(その2)」(2)	25	第15章「個人企業の資本と税金」
10	第8章「現金・預金取引」(1)	26	第16章「決算手続き(その2)」(1)
11	第8章「現金・預金取引」(2)	27	第16章「決算手続き(その2)」(2)
12	第9章「商品売買取引」(1)	28	第16章「決算手続き(その2)」(3)
13	第9章「商品売買取引」(2)	29	第16章「決算手続き(その2)」(4)
14	第9章「商品売買取引」(3)	30	第16章「決算手続き(その2)」(5)
15	第10章「掛取引」	31	期末試験
16	中間試験		

【履修上の注意事項】

講義には、電卓と教科書を持って参加してください。講義を休むと遅れを取り戻すのは大変です。午前中ですが、頑張って早起きして講義に参加しましょう！

【評価方法】

小テスト(20点×3回=60点)、期末試験40点、合計100点で評価します。毎回講義に出席している学生に関しましては、若干の平常点も加味します。まずは講義に出席することが重要です！

【テキスト】

上江洲由正・大城建夫編「簿記の技法とシステム(第3版)」同文館出版
多賀配布資料兼問題集

【参考文献】

講義の時適宜提示します。

簿記原理 I

担当教員 -上江洲 由正

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について商業簿記を中心に講義する。具体的には資産、負債、純資産、収益、費用概念のもとでの記帳ルールとプロセス、貸借対照表や損益計算書の作成を講義する。簿記は実学であるので、練習問題を数多く解いてもらい理解を深めてもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	複式簿記の意味と機能	17	売上総利益の計算
2	資産・負債・純資産	18	売上帳・仕入帳の作成
3	貸借対照表の作成	19	人名勘定と掛取引の記帳
4	収益・費用と損益計算書の作成	20	手形の記帳
5	取引と勘定	21	同上
6	仕訳と転記	22	その他の債権・債務の記帳
7	同上	23	第2回までの復習問題
8	試算表の作成	24	減価償却の計算と記帳
9	6桁精算表の作成	25	貸倒引当金の記帳
10	決算	26	有価証券の記帳
11	同上	27	費用・収益の見越
12	現金・預金の記帳	28	費用・収益の繰延
13	同上	29	8桁精算表の作成
14	第13回までの総まとめ	30	総まとめ
15	総合問題	31	期末試験
16	商品売買の記帳（3分法）		

【履修上の注意事項】

1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席することを心がけてください。なお、テキスト持参がなければ講義は全く理解できず、実質的には出席扱いにはならないので注意すること。

【評価方法】

テスト、受講態度、宿題等の提出状況に基づき評価する。

【テキスト】

上江洲由正他『簿記の技法とシステム』同文館

【参考文献】

簿記原理 I

担当教員 新里 和也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

個人商店でも大企業でも、経営活動を行うとそこにはさまざまな取引が生じます。その取引を記録・計算・整理する方法が「簿記」です。簿記は、経営の報告書、すなわち財務諸表を作成するために最も基礎となる知識であり、今日のビジネスの世界においては、簿記の知識は必須であります。本講座では、簿記の基本を、その前提知識を中心に演習を交えて習得していただきます。

【授業の展開計画】

第1章 簿記の意義

第2章 企業の財政状態と貸借対照表

第3章 企業の経営成績と損益計算書

第4章 取引

第5章 勘定記入

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表と清算表

第8章 決算手続

【履修上の注意事項】

1. 講義中に演習を行うこともあるので、電卓かそろばんを持参してください（定規、赤ペンもあると便利です）。
2. すべての単元が、簿記学習上つながっています。欠席すると、理解が難しくなるので、できるだけ欠席しないこと。もし欠席したら、各自で学習すること。
3. 簿記原理 I～IIの流れで、進度、単元が多少変動する場合があります。

【評価方法】

出席状況と定期試験結果により評価します。

【テキスト】

金井繁雅・海老原諭著『簿記原理入門』創成社
『段階式日商簿記ワークブック3級』税務経理協会

【参考文献】

その都度紹介します。

簿記原理Ⅱ

担当教員 -上江洲 由正

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

簿記原理Ⅱ

担当教員 新里 和也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

マルチメディア論

担当教員 中西 利文

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ロボットプログラミング

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】